

地山、岩石を起因物とする崩壊・倒壊の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	1	10～11	農業用井戸の築造工事において、幅約3.5メートル、深さ約5メートルの掘削箇所に直径60センチ、長さ約2.4メートルのヒューム管を据え付けるため、2名が掘削箇所の床掘り作業中に、約4.5立方メートルの土砂が崩壊し2名が生き埋めになった。	30107	10～29
1999	1	13～14	林道開設工事現場において、ウッドブロックを積む作業をしていたときに、法面が高さ約10メートルにわたり崩れ下敷きとなった。	30106	30～49
1999	1	16～17	農業用導水管埋設工事現場で、溝の中で床ならし作業中、地山が長さ5メートルにわたって崩壊し生き埋めになった。	30107	10～29
1999	1	16～17	排水路改修工事現場において護岸の地山が崩落し、約2.3メートル下の排水路内で間知石の積上げのため裏込コンクリート打ちの補助作業をしていた者に崩落した土砂が背後から激突した。	30107	1～9
1999	2	16～17	導水管布設のために掘削した幅2.5m長さ3m深さ4mの中に立ち入り、簡易土止支保工設置のため床面作業を行っているときに、法面の片側が縦3.3m横2.5m深さ1.27mにわたり崩れ落ち、土砂の下敷きとなった。	30110	1～9
1999	2	11～12	塩化ビニール製下水道管の埋設工事において、ドラグショベルによる掘削を終えたので木矢板を取りつけるために床ならしを行っているときに、法面が2.7メートルにわたり崩壊し埋まった。	30110	10～29
1999	3	14～15	汚水枝管(200mmφ×4m)を深さ約3.5mの土中に埋設するため、ドラグショベル及び手掘による掘削と、土止め支保工の組立、建て込みを交互に行い、最終建て込みの直前に床ならしをしていたときに土圧により内側に倒壊	30110	1～9

			した支保工部材にはさまれた。		
1999	3	15 ～ 16	市道に沿って污水管を埋設するためバックホーで掘削し、その底部をブレーカーではつり仕上げをしていたときに、掘削した法面の真砂及び軟岩が崩壊し、底部で作業していた2名が生埋めとなった。	30199	10～ 29
1999	3	8 ～ 9	屋外給排水工事現場において、施工した管路の高さに不具合が生じたので、ヒューム管の布設し直しを行うため、3名で深さ1. 2メートルの掘削床に入って埋め戻した山砂をスコップで掘って除去していたときに、根切りした垂直地山が崩壊し、1名が崩壊した土塊と根切りした垂直地山に胸部を挟まれた。	30199	1～9
1999	3	15 ～ 16	市道に沿って污水管を埋設するため、バックホーで掘削して底部をブレーカーではつり仕上げ作業していたときに、掘削した法面の真砂及び軟岩が崩壊し生埋めとなった。	30199	10～ 29
1999	3	7 ～ 8	トンネル工事で、坑口より170メートル地点のコソク作業中に前日にコンクリート吹きつけてロックボルトを施した箇所が高さ4m、長さ7m、奥行き2mにわたり崩落した。	30102	10～ 29
1999	3	13 ～ 14	下水道管布設工事現場で、管布設後一部を埋戻してドラグショベルで簡易土止め支保工を1メートル程引き上げ、次の場所へ水平移動させた時に、掘削底にスコップを置き忘れていたので取りに入ったところ土砂崩壊が生じ肩まで埋まった。	30110	1～9
1999	4	16 ～ 17	深さ2メートル、幅95センチメートルの掘削された溝の中での土止め支保工を組み立て作業で、鋼矢板を腹起こしにはめ込む作業をしていたときに、鋼矢板が取り付けられていない箇所の土砂が崩壊した。	30110	1～9
1999	5	13 ～ 14	污水管布設のため法面を1. 2～1. 8メートル掘削し、掘削面の高さの調整作業を行っていたときに、法面が2度にわたり崩壊し生き埋めになった。	30110	10～ 29
1999	4	10 ～	深さ3メートル、幅0. 9メートル、延長約10メートルの下水道布設用に掘削された溝に落としたスコップを拾いに行き、梯子を上がる途中、土砂が突然	30110	50～ 99

		11	約2メートルの幅に渡って崩壊し首まで埋まった。		
1999	4	9 ～ 10	ケーブルクレーン架設のため、アンカー埋設用の穴の床掘り作業中、側壁が崩壊して生埋めになった。	30108	10～ 29
1999	7	13 ～ 14	砂防えん堤の型枠を組立てているときに、現場横の山が雨でゆるんでいて幅10.5m、高さ約30mにわたって崩壊し、溶接作業中の者が生き埋めになった。	30108	10～ 29
1999	4	15 ～ 16	会社の敷地拡張でドラグショベルにより法面に石積みを行っていたところ、法面が幅約20m、奥行き約5mにわたり崩壊したため、ドラグショベルと共に転落して車外に放り出され、崩壊した土砂に埋まった。	30108	10～ 29
1999	7	14 ～ 15	下水管を埋設するために掘削した深さ約2メートル、幅約1.7メートル、長さ約6.5メートルの溝の底で、造成地と道路の境界に埋まっていたコンクリート壁に削岩機を使って穴を開ける作業中に、側壁の土砂が崩れて生き埋めになった。	30110	1～9
1999	7	11 ～ 12	ドラグショベルで塩ビ下水管埋設のため幅2m、深さ2.6m、延長14.8mの溝を掘削して、その後シートパイル6枚を片側に設置し、もう一方に2枚設置し、腹起しの取付けを行おうとしていたところ、シートパイル6枚で土止めた側の法面が崩壊し、溝内の4人が生埋めとなった。	30110	30～ 49
1999	7	11 ～ 12	ドラグショベルで塩ビ下水管埋設のため幅2m、深さ2.6m、延長14.8mの溝を掘削して、その後シートパイル6枚を片側に設置し、もう一方に2枚設置し、腹起しの取付けを行おうとしていたところ、シートパイル6枚で土止めた側の法面が崩壊し、溝内の4人が生埋めとなった。	30110	30～ 49
1999	8	14 ～ 15	上水道の送配水管を敷設するため、路面を1.8m掘削して3本目の管を床面に仮置きし、2人が溝の中に入って接合面を合わせてボルト止めをできる状態にまでなったときに、地山が崩壊し1人が生き埋めとなった。	30110	10～ 29
1999	8	14 ～	細骨材(砂)を製造するための花崗岩を採取する採石場において、ブレーカーの運転者が切羽の崩壊(200から300立方メートル)により滑り落ちた岩石(重	20201	30～ 49

		15	量約40t)の直撃によってつぶされた運転室内で胸部等を挟まれた。		
1999	9	11 ～ 12	下水道管を敷設する工事において、深さ1.7m、幅0.84m、長さ7.4mの掘削溝の中でスコップで底面を均等にならす作業中に、掘削溝側面の土砂が崩壊し生埋めになった。	30110	1～9
1999	9	16 ～ 17	水路復旧工事において、護岸の石積作業を行っていたところへ約11m上部の岩壁(推定勾配・約60度)から岩盤(泥岩、幅5m×高さ3m)が崩落し、頸部に岩(径・約0.6m)が直撃した。	30107	10～ 29
1999	4	10 ～ 11	送電鉄塔の改築工事において、基礎コンクリートの鋼製型枠の脱型作業中に、高さ約5mの法面が崩壊し、土砂に埋まった。	30301	10～ 29
1999	9	14 ～ 15	国道山側の法面の補強工事において、法面上(高さ約40m)で型枠の組立作業中に法面上部から土石が崩壊し、生埋めとなった。	30199	10～ 29
1999	8	15 ～ 16	配電盤枠の製造工場(鉄骨平屋建)の南側裏山が高さ約20m、幅30m(崩壊土量約453?)にわたって崩れ、工場内にいた3名、屋外にいた1名が土砂に巻き込まれ、1名が死亡した。	11209	1～9
1999	9	14 ～ 15	道路法面に擁壁を築造するため、作業員2名がピックハンマーを用いて地山掘削を行っていたところ、はつっていた箇所の上部が崩落し、その岩石(風化花崗岩)とともに約2.8m下のコンクリート打設面に墜落した。	30199	1～9
1999	10	11 ～ 12	緊急地方道路整備工事現場において、深さ約1.8m、幅1.5m、長さ6mの掘削溝の中に入り土止めのための鉄板(3m×1.5m、重さ約800kg)の据え付け作業の補助をしていたところ、溝の側壁の一部が崩れ、鉄板を押し倒したため、この鉄板の下敷きになった。	30110	10～ 29
1999	10	16 ～ 17	住宅新築工事現場において、浄化槽設置のため深さ2.3メートルの掘削作業を行っていたところ地山が崩壊し、内部でスコップ作業を行っていた者が埋った。	30110	1～9
		11	道路の路盤コンクリートをドラグショベルで掘削し、写真撮影のため立ち		

1999	11	～ 12	入った時に突然土砂が崩壊し、埋まった。	30106	1～9
1999	11	16 ～ 17	砂利の採取場において、砂利層の一番底から地上まで、4段ステップを設けて4台のドラグ・ショベルで中継して砂利をダンプに積み込んでいるときに、法面が崩壊し一番底で作業中のドラグ・ショベルが崩壊した土砂に埋没し、運転者も一緒に土砂に埋没した。	20202	10～ 29
1999	11	10 ～ 11	下水管埋設のための溝をドラッグショベルで掘削し、アルミ製矢板を両側に各9枚設置したところ、矢板が膨らんできたため一旦矢板を撤去し、ドラッグショベルで土砂を排出して溝底に入ったときに土砂が崩れて生き埋めになった。	30110	10～ 29
1999	11	9 ～ 10	坑口より約290メートル入ったトンネル切羽において、切羽の岩盤を削孔して、発破用の火薬を装てんしていたところ、目の切羽の岩盤が高さ約5m、幅約4mに亘って崩壊し、1名が岩石に生埋めとなった。	30102	10～ 29
1999	11	14 ～ 15	下水道管敷設工事現場において、土止め支保工を打ち込むため深さ約2m、幅1mの掘削した溝の底で地面をならしていたところ、側壁約3立方メートルが崩壊して胸まで埋まった。	30199	10～ 29
1999	9	7 ～ 8	前日までに掘削した土砂を搬出するため、法面の下で作業の準備をしていたところ、高さ30m、幅15mにわたり法面が崩壊し、2名がそれぞれ乗っていたドラッグショベル、11tダンプと共に土砂に押し流されて埋った。	20209	10～ 29
1999	9	7 ～ 8	前日までに掘削した土砂を搬出するため、法面の下で作業の準備をしていたところ、高さ30m、幅15mにわたり法面が崩壊し、2名がそれぞれ乗っていたドラッグショベル、11tダンプと共に土砂に押し流されて埋った。	20209	10～ 29
1999	11	13 ～ 14	マンションの基礎杭を打つため、バックホーで約2.3m掘削したのち、床面にあった石の除去と地ならしをしているときに土砂が崩壊した。	30201	1～9
		15	道路を深さ4m、幅2mで掘削し畑地灌漑用の配水管の埋設を行っていたときに、隣接した掘削箇所の上に敷かれた鉄板上を埋め戻し用土砂を積載した		

1999	12	～ 16	ダンプカー(2t)が後進してきたため、鉄板を支えていた側壁が崩れ、ダンプ カーが掘削箇所へ転落し、鉄板の下付近で曲管部にコンクリートを巻く作業 をしていた2名が崩れてきた土砂の生き埋めになった。	30110	0
1999	12	～ 16	道路を深さ4m、幅2mで掘削し畑地灌漑用の配水管の埋設を行なっていたと きに、隣接した掘削箇所の上に敷かれた鉄板上を埋め戻し用土砂を積載した ダンプカー(2t)が後進してきたため、鉄板を支えていた側壁が崩れ、ダンプ カーが掘削箇所へ転落し、鉄板の下付近で曲管部にコンクリートを巻く作業 をしていた2名が崩れてきた土砂の生き埋めになった。	30110	0
1999	12	10 ～ 11	砂防ダム建設予定現場で、立木の伐採作業を行っていたときに、約25メー トル上方の斜面から岩石(直径約2m)1個が落下してきて、下の材木集積場で玉 切りをしていた者がその下敷きになった。	60201	1～9
1999	12	14 ～ 15	カルバートを敷設するためのドラグショベルで掘削を行っていたときに、掘 削(深さ4m)直後の地山が崩壊し、掘削溝の中で測定用ポールを立てていた者 が埋まった。	30109	10～ 29
1999	6	15 ～ 16	宅配便の配達業務中、豪雨による土砂崩れの土石流に直撃されて川に車ごと 転落し、生き埋めとなった。	40301	30～ 49
1999	6	17 ～ 18	客先で通信機器の調整作業中に、集中豪雨で裏山が突然崩れたため、事務所 が土砂に押しつぶされ生き埋めとなった。	80201	10～ 29
1999	6	17 ～ 18	事務室で業務打合わせ中、集中豪雨により施設西側の山が崩壊して事務室に 土砂が流れ込み、生き埋めとなった。	130201	10～ 29
1999	12	10 ～ 11	上水道管埋設工事現場において、上水道管等を埋設する溝(幅65cm、深さ約 2m)をドラグ・ショベルで掘削し、その溝内に入れた碎石の均し作業を行う ため、鍬を持って溝内に入り作業を行っていたときに、片側の掘削面(勾配 約88度)の土砂が崩壊し生き埋めとなった。	30110	10～ 29

1999	12	11 ～ 12	ドラグショベルで土止支保工の鋼矢板を打込むため、掘削溝(深さ1.8m)の中に入り、鋼矢板を支えていたとき、後方より土砂(土量0.5立方メートル)が崩壊し、その土砂の塊が頭部を直撃した。	30110	1～9
2000	4	10 ～ 11	市道の側溝(コンクリート製)の取替工事に6名で従事していて、旧側溝を外し、同じ位置に新トラフを埋設するためスコップで床均しをしていたところ、突然50cm離れた石垣(高さ約7m角度約70度)が上部から崩れたため、3名が生き埋めとなり死亡2名重傷1名となった。	30106	10～ 29
2000	4	10 ～ 11	市道の側溝(コンクリート製)の取替工事に6名で従事していて、旧側溝を外し、同じ位置に新トラフを埋設するためスコップで床均しをしていたところ、突然50cm離れた石垣(高さ約7m角度約70度)が上部から崩れたため、3名が生き埋めとなり死亡2名重傷1名となった。	30106	10～ 29
2000	10	22 ～ 23	鉱山の坑道内において掘削のための積込・穿孔・発破作業中、崩れた岩塊(重量約1.3t)の下敷になった。	20301	100 ～ 299
2000	12	8 ～ 9	トンネル切羽でバックホーとタイヤショベルで地盤改良中に切羽の地山が崩壊して湧水を多量に含んだ土砂が坑口側に約60m流出し、機械ごと押流されたが各オペレーターは自力で脱出したものの、切羽から約40m後方で路盤整形用ミニバックホーに乗って待機していた者がミニバックホーごと押流され、後方に止めていたトンネル掘削機械との間に生埋めとなった。	30102	30～ 49
2000	2	15 ～ 16	広域基幹林道開設工事現場で、林道脇の法面(高さ11.65m、幅11m)が崩壊し、付近で側溝の地均し作業を行っていた者2名が生き埋めとなった。	30106	1～9
2000	2	15 ～ 16	広域基幹林道開設工事現場で、林道脇の法面(高さ11.65m、幅11m)が崩壊し、付近で側溝の地均し作業を行っていた者2名が生き埋めとなった。	30106	1～9
2000	8	14 ～	給水工事において、分水を行うため既設管の試掘作業を行ったが見つからないことから、幅1m、深さ3m、長さ4mに担って掘削し、矢板で土止めしていたところ、土砂崩壊をおこし、土止めの切ばりの取付け等の作業を行って	30203	10～

		15	いた者が土砂に押され矢板の間に挟まれた。8月19日に脳挫傷により死亡した。		29
2000	8	11 ～ 12	上下水道管布設工事において、深さ2. 28m、幅1. 1mの掘削溝に下水道管を布設し、鋼製矢板を引上げ碎石及び発生土で深さ1. 3mまで埋戻した後、掘削溝に水道管を布設するため立入ったときに土砂(高さ1. 3m、長さ2. 1m、幅0. 6m)が崩壊して腰まで埋った。	30110	10～ 29
2000	3	16 ～ 17	下水道管布設工事において、ドラグショベルで深さ2. 5mまで掘削して本下水道管・マンホールを布設して、埋め戻し(深さ1. 5mまで)作業中、突然、後方の地山が崩壊し、膝下まで埋没し、そのショックで意識を失った。	30110	1～9
2000	3	18 ～ 19	町道の災害復旧工事において、崩壊した部分を幅約2m、深さ約2mに掘削したのちボックスカルバートを据えるための水系張りで掘削部分を移動していたときに壁の一部が崩落し腰部まで土砂に埋った。	30106	1～9
2000	10	11 ～ 12	雨水排水管埋設工事において、マンホールの築造前に付近に埋設されている水道管の位置確認のため、深さ1. 5mの掘削底面に降りて手掘りで地山壁面を掘削していたときに背面の地山が崩壊し、碎石塊(約200kg)に背後から直撃された。	30109	1～9
2000	11	13 ～ 14	宅地造成工事に伴う下水管埋設工事で、ドラグショベルで幅2m、長さ10m、深さ5mの掘削を行い、溝底部で排水管の位置調整を行っていたときに片側の土砂が崩壊し、全身生埋めとなった。	30110	10～ 29
2000	1	16 ～ 17	県道山側の法面(勾配約68度)に吹き付けたモルタルが劣下してきたので、法肩よりロリップで法面に降り法尻から動力ピックでモルタルを削り落す作業を順次行い法尻より約40m付近で作業中に、3名が作業を行っていた上部のモルタルが滑落して巻き込まれ、1名が転落して死亡し、他の2名が負傷した。	30199	1～9
2000	1	16 ～ 17	採石現場で土砂崩壊により転倒したドラグショベルを2台のドラグショベルで引き起こす作業中に、2度目の土砂崩壊(高さ約160m、幅約70m)が発生し、ドラグショベルにワイヤーを掛けていた者が巻き込まれた。	20201	10～ 29

2000	8	14 ～ 15	ドラグショベルで高さ50mある崖下の砂の掘削、採取作業を行っていたときに、高さ約20m、幅約30mにわたり山肌が崩壊し、ドラグショベルとともに生き埋めになった。	20209	1～9
2000	3	9 ～ 10	型枠のばらし作業をえん堤足場上で行っているときに、斜面が崩落し足場とともに転落した。	30108	1～9
2000	1	13 ～ 14	トンネル工事で、切羽の掘削、支保工組立、モルタルの吹付け作業等を終了し、次の支保工組立の基礎の確認のために切羽に近づいて掘削盤の高さの確認を行っていたときに切羽右側の岩盤が突然崩落(推定：5. 6?)し、岩盤に巻込まれた。	30102	50～ 99
2000	12	10 ～ 11	トンネル工事現場において、切羽前で発破の装薬作業中に、鏡面から約3?の岩塊が抜け落ちて落下した岩塊に下半身及び右上腕以上が埋まった。	30102	30～ 49
2000	7	13 ～ 14	埋設した仮設水路用強化プラスチック管(長さ5m)をドラグショベルで掘り起こして撤去する作業で、4本目の管を撤去して掘削床の排水用ポンプを移設しているときに土砂崩壊があり生き埋めとなった。	30105	10～ 29
2000	2	10 ～ 11	管渠築造工事現場において、管渠を埋設するためドラグショベルで幅1. 2m、深さ約4mに掘削し、土止めを行うため底面に入って、長さ約4mの軽量鋼矢板の建て込み作業をしていたときに、掘削側面が崩壊し、生き埋めになった。	30110	10～ 29
2000	12	10 ～ 11	碎石場でドラグショベルを使用し採石作業を行っていたときに、掘削面の地山が崩壊し、約1tの岩石が運転席を直撃した。	20201	1～9
2000	10	13 ～ 14	橋脚基礎工事の障害となる石積みえん堤を撤去するため、地山を2. 5メートル掘削し水中ポンプで排水を行っていたが、そのポンプの点検を行っていたときに、法面が崩壊して生き埋めとなった。	30105	100 ～ 299
		14	造成作業中の埋立地において、ブルドーザーを運転していたところ、埋立地		30～

2000	12	～ 15	盤とともに内海に滑り落ち、運転席に閉じ込められて溺死した。	30109	49
2000	11	11 ～ 12	林道の開設工事において、重機の作業用通路を造るためドラグショベル2台で掘削を行っていたところ、盛土が約2000?崩壊してドラグショベルで2台が埋り、作業をしていたオペレーター1名が生埋めとなった。	30106	10～ 29
2000	12	13 ～ 14	下水道工事において、下水管の高さ調整のため道路を掘削し、パワーショベルで鉄板を掘削斜面に立てかけ、その後、坑内で下水管の上の土を取る手直し作業を行っていたときに鉄板とともに掘削面の地山が崩壊し下敷きになった。	30106	10～ 29
2000	3	11 ～ 12	下水管理設工事の終了後、漏水が認められたため再度土止め支保工などを設けず掘削しての原因調査を行っていたときに地山が崩壊し、生埋めになった。	30110	10～ 29
2000	5	11 ～ 12	下水道工事現場で長さ約4. 5m、幅1. 0m、深さ2. 4mの明り掘削して塩化ビニール製パイプ(長さ4. 15m)を布設し、砂で中詰をしたのち土留め支保工を取り外したところ地山の一部分が崩壊して生埋めになった。	30110	30～ 49
2000	9	14 ～ 15	市道拡幅工事現場において、道路(約2. 7m)からコンクリートミキサー車で約2. 5m下の掘削底にコンクリートを打設中に、路肩が崩壊し、ミキサー車を車外で操作していた者がミキサー車とともに転落した。	10901	30～ 49
2000	1	11 ～ 12	下水管理設工事において、深さ約2. 3mの穴に入って床堀を行っていたところ、穴の側面の土砂が崩落し、生き埋めとなった。	30199	10～ 29
2000	8	16 ～ 17	管渠築造工事で、鉄管(直径約1. 6m、深さ約7m)の中で下水道管を通す準備作業していたところ、突然、下から噴き上げてきたヘドロ状の汚泥にのみ込まれ生き埋めになった。	30106	1～9
2000	1	13 ～	高さ約30m、勾配約65度の法面に貼られたモルタルの剥離作業で、法肩より親綱をとりロリップ式の安全帯を使用してピックハンマー、バールで引き剥がし、法面下部はブレーカでモルタル表面を穿孔し爪でモルタルを引き剥が	30199	1～9

		14	す方法で作業を行っていたところ、地山が約500m3崩壊し生き埋めとなった。		
2000	1	13 ～ 14	高さ約30m、勾配約65度の法面に貼られたモルタルの剥離作業で、法肩より親綱をとりロリップ式の安全帯を使用してピックハンマー、バールで引き剥がし、法面下部はブレーカでモルタル表面を穿孔し爪でモルタルを引き剥がす方法で作業を行っていたところ、地山が約500m3崩壊し生き埋めとなった。	30199	1～9
2000	4	10 ～ 11	山砂採取場の高さ約13mのベンチ上でドラグショベルで地山の掘削作業を行っていたところ、小規模な崩落が発生し、しばらくして、地山が高さ約50m、幅約50mに亘って崩壊したため、作業道を降りかけていたドラグショベルがこれに巻込まれて作業道より転落し土砂の下敷になった。	20209	1～9
2000	3	8 ～ 9	河川の護岸工事で全高8mほどの法面においてブロック積み(高さ3m)を行っていたときに上方の法面が崩壊し、岩石が落ちてきて背中を直撃した。	30107	50～ 99
2000	10	10 ～ 11	橋梁建設において、橋台の型枠建込みのため床掘り箇所付近で墨出し作業を行っていたときに、掘削法面(高さ約5m、勾配約90度)の一部が崩壊し、屈んで作業していた作業員1名が生き埋めになった。また、救出作業にあたった2名も2次崩壊により負傷した。	30105	10～ 29
2001	1	14 ～ 15	ダムに付属する公衆トイレ設置工事において、浄化槽を設置するために深さ3m、縦10m、横4.3mの縦坑を掘削し、土止めとして縦3m、横1.5m、厚さ2～3cmの鉄板を5枚設置したところ、その鉄板の内3枚が背後の地山の崩壊により倒れその下敷きになった。	30199	10～ 29
2001	1	14 ～ 15	ダムに付属する公衆トイレ設置工事において、浄化槽を設置するために深さ3m、縦10m、横4.3mの縦坑を掘削し、土止めとして縦3m、横1.5m、厚さ2～3cmの鉄板を5枚設置したところ、その鉄板の内3枚が背後の地山の崩壊により倒れその下敷きになった。	30199	10～ 29
2001	2	9 ～	下水道管を埋設するために掘削した縦穴内部において底部の整地作業を行っていたときに、縦穴側面の地山が崩壊して土石が直撃し、はずみで倒れたて	30110	1～9

		10	縦穴内部にあった岩石に頭部を打ちつけた。		
2001	2	16 ～ 17	鉄筋コンクリート造アパートの浄化槽設置のため、幅5. 2m、深さ2. 7m、長さ10mにわたってドラグショベルで掘削していたところ掘削壁面の土砂が崩壊し、掘削床で整地作業をしていた2名の作業員の足が埋まり、うち1名が土塊で上半身を直撃され内臓が破裂した。	30309	1～9
2001	2	10 ～ 11	採石場において、高さ約76m、幅約15m、奥行き約3mの柱状の石が法面から剥離して法面の下で切り崩した石を掻き出す作業を行っていたドラッグショベルの上に崩れ落ちてドラッグショベルの運転席が大破した。	20201	30～ 49
2001	3	10 ～ 11	工場の解体工事で、浄化槽の解体のため浄化槽の脇をドラグショベルで掘削作業中オペレーターが掘削箇所の確認のため掘削床に下りたときに、浄化槽の側面が崩壊し生き埋めになった。	30209	10～ 29
2001	3	11 ～ 12	7人の作業員で行っていた国道沿いに落石防護用のコンクリート擁壁を設置する作業が終了し、法面側で裏込めをするため除雪し、土砂の埋め戻しをしていたときに、積雪とともに土砂が高さ11. 2m、幅22mにわたって崩壊し生き埋めになった。	30199	10～ 29
2001	3	11 ～ 12	7人の作業員で行っていた国道沿いに落石防護用のコンクリート擁壁を設置する作業が終了し、法面側で裏込めをするため除雪し、土砂の埋め戻しをしていたときに、積雪とともに土砂が高さ11. 2m、幅22mにわたって崩壊し生き埋めになった。	30199	10～ 29
2001	1	12 ～ 13	踏切の警報機・遮断機の電気配線を通す積上式マンホールを埋設するため深さ1. 5mの掘削底部で床均し作業を行っていたところ、掘削箇所の法面に埋設されていた遮断機のコンクリート製基礎の下部の土砂が崩れたため基礎が倒れ、地山と基礎との間に挟まれた。	30104	10～ 29
2001	3	11 ～ 12	逆打工法による地下3階部分の根伐工事において、床付地盤の高さをレーザーレベルで測量していたときに、後方の地山(シルト層を石灰で地盤改良したもの)が崩壊し生き埋めになった。	30201	10～ 29
		10	地山を階段状に掘削して斜面の下部にコンクリート擁壁を設置するため、コ		

2001	3	～ 11	ンクリート打設し、型枠をばらした後に写真撮影の準備のため現場責任者と2人がコンクリート擁壁と地山の間にいったときに、地山が幅8. 3m、高さ4m、奥行1. 2mに亘り崩壊し生き埋めとなった。	30199	1～9
2001	3	10 ～ 11	地山を階段状に掘削して斜面の下部にコンクリート擁壁を設置するため、ンクリート打設し、型枠をばらした後に写真撮影の準備のため現場責任者と2人がコンクリート擁壁と地山の間にいったときに、地山が幅8. 3m、高さ4m、奥行1. 2mに亘り崩壊し生き埋めとなった。	30199	1～9
2001	3	10 ～ 11	地元住民から地山崩壊(約10万m ³)の連絡があったので、採石作業を中止して地山の様子をみていたときに、高さ約250m、幅約150mにわたり地山が崩壊して、工場長(遺体で発見)、トラックへ積込み作業を行っていた作業員(行方不明)、トラック運転手の3名が逃げ遅れて生き埋めになった。	20201	1～9
2001	3	20 ～ 21	先進導坑をベンチカット工法で切り広げるtネル工事現場において、切羽鏡面の下部で発破用火薬の装てん作業を行っていたときに上部の切羽鏡面が崩落し、その下敷きになった。	30102	10～ 29
2001	4	16 ～ 17	宅地造成工事において、下水管敷設作業を終えて現場を立ち去ろうとしたときに、掘削溝の側壁が突然崩れ、掘削溝の中で床ならし作業をしていた者が逃げ切れずに、崩れてきた土砂の塊と掘削溝の側壁との間に下半身を挟まれた。	30110	1～9
2001	6	8 ～ 9	掘削法面90度の掘削底面において地中に埋められた排水管(直径1m)の撤去作業中、背後の土砂が崩壊して生き埋めになった。	30106	50～ 99
2001	7	9 ～ 10	高さ約2mのコンクリート擁壁で土止めされた民家に隣接する箇所の市道の側溝補修工事で、ドラグショベルで掘削したのち掘削箇所で土止めの補強を行っていたところ、民家敷地の土砂が擁壁とともに崩壊し崩壊した擁壁と道路側の溝壁との間に挟まれた。	30199	10～ 29
2001	7	17 ～ 18	下水道工事現場で、町道に掘った深さが約2.5mの溝に塩化ビニール製の下水道管を埋設作業中に土砂が崩れ内臓が破裂した。	30110	1～9

2001	7	9 ～ 10	県道の歩道に埋設した下水道管の手直し作業のため、ドラグショベルで長さ約5.5m、幅約1.8m、深さ約2mの溝を掘削し、掘削溝内で管の埋設深さを確認しているときに路肩側の土砂が崩壊し下敷きになった。	30110	1～9
2001	7	16 ～ 17	河川に籠マットを敷設する工事において、当日の作業が終了したので河床から2mほど掘削した法面付近で排水ポンプの吸入口周辺の掃除を行っていたところ、突然幅4m、高さ4m、厚さ0.5mに亘り法面の軟岩部分が崩落し、腰部分まで埋った。	30199	1～9
2001	8	11 ～ 12	切羽でホイルジャンボのケージに乗って発破前の「こそく」作業中に、高さ7.5m位の切羽から崩落があつて背部に激突した。	30102	30～ 49
2001	8	10 ～ 11	排水用のヒューム管を埋設するため岩盤を約3.85mの深さに掘削した中で丁張取付作業を行っていたときに、側面の岩盤が約6?が崩落し、岩石の下敷きになった。	30106	10～ 29
2001	9	11 ～ 12	排水路用ヒューム管埋設のため、建設用掘削機械で垂直堀りして床均し、均しコンクリート打設のため作業員3名が穴の中に入ったところ、粘土質の地盤が垂直方向に剥がれる形で崩壊し、反対側の掘削側面との間に挟まれた。	30199	1～9
2001	9	9 ～ 10	集落排水工事において、掘削溝に排水管を埋設し排水管の上に砂をかけたが、排水管の位置がずれていたため、掘削溝に入り排水管の位置を直して掘削溝から出ようとしたときに掘削溝の側壁が崩落し生埋めになった。	30110	10～ 29
2001	9	16 ～ 17	台風の接近のため高速道路を閉鎖し手分けして道路各所を巡回点検していたときに、下り車線側の法面で盛り上がっている場所があるのを発見し現場に接近したとき法面が大規模に崩壊し4名が中央分離帯のガードレールまで流され2名が土砂に埋没した。	30199	10～ 29
2001	9	16 ～ 17	台風の接近のため高速道路を閉鎖し手分けして道路各所を巡回点検していたときに、下り車線側の法面で盛り上がっている場所があるのを発見し現場に接近したとき法面が大規模に崩壊し4名が中央分離帯のガードレールまで流され2名が土砂に埋没した。	30199	10～ 29

2001	10	9 ～ 10	乗用車で国道を走行中、右側の法面が崩壊し車両が土砂にのみこまれた。	170209	1～9
2001	11	15 ～ 16	マンション新築工事において、基礎工事のために掘った窪地(深さ約4m、広さ約400㎡)の壁面の地山(地質：細砂)が崩壊し、窪地の底部で基礎杭のハツリ作業を行っていた者が埋った。	30201	1～9
2001	11	9 ～ 10	下水道築造工事において、下水管4mを埋設するため深さ1.8mに掘削した場所の床付作業を行っていたときに、土砂が崩れ生埋めになった。	30110	10～ 29
2001	11	15 ～ 16	護岸用基礎工事のため掘削した溝の中に入り型枠の生コンクリートを均す作業をしていたときに、掘削した法面が幅約10mに亘り崩壊したため土砂に埋まった。	30107	50～ 99
2001	12	11 ～ 12	古いヒューム管を塩ビ管に替える工事において、土止め支保工の設置を怠ったために2.5m掘削した法面が約9?崩壊し生き埋めになった。	30110	1～9
2001	2	10 ～ 11	砂利採取場への取付道路を拡張するためブレーカーで法面(岩盤)を掘削していたところ、岩盤が幅約2m、高さ8mにわたって崩壊し、真下で作業していたブレーカーの運転席を岩石が直撃し、ウィンドガラスを割って頭部にあたった。	20202	1～9
2001	12	13 ～ 14	農業集落排水事業の下水道管敷設工事において、下水道の支管を本管へ繋ぐためドラグショベルで掘削し、埋設してあった本管を確認しようとして底に降りていたときに、支管と本管の交差部分の土砂が崩壊し(約1.5?)生埋めになった。	30110	10～ 29
2001	12	13 ～ 14	下水道管を敷設する工事において、掘削した溝に簡易矢板による土止め支保工を設置し、管敷設が終った区間について埋め戻すため作業員全員で矢板を人力で引き、残った腹起こしを撤去していたときに腹起こしが倒れてきて下敷になった。	30110	1～9

2001	10	14 ～ 15	林道の開設工事中に上部の地山(高さ約25m)が崩壊し、ドラグ・ショベルの運転席に巨石(約10m×5m×3m)が激突した。	30106	10～ 29
2001	11	8 ～ 9	林道開設に伴う残土処理場の新設工事において、機械掘削を行った法面下で配水管の布設作業中に、法面が幅約4m、高さ約3mにわたり崩壊し生き埋めになった。	30106	1～9
2001	12	13 ～ 14	下水道管敷設工事において、道路を幅約1.5m、長さ約9.5m、深さ約2mにわたり掘削していたが掘削箇所から岩が出てきたので削岩機を使用して碎いていたときに、土砂が崩落してきて砂と石が固まった層の断片と碎いていた岩との間に頭部をはさまれた。	30110	10～ 29
2001	3	10 ～ 11	地元の住民から地山崩壊(約10万?)の連絡があったので、採石作業は中止して地山の様子を見ていたところ、高さ約250m、幅約150mにわたり地山が崩壊して、工場長、トラックへ積み込み作業中、トラック運転手の3名が逃げ遅れ生き埋めになった。	20201	1～9
2002	2	20 ～ 21	高速道路のトンネル掘削のため、坑口より約400mの地点で発破をかけずり取りが終了したが、切羽で肌落ちの危険を感じたので作業員に切羽に入らないよう職長が指示した後に1人が切羽右部に居て肌落ちした岩石に直撃された。	30102	1～9
2002	2	11 ～ 12	畑地の灌漑用水管(塩ビ管)の布設工事において、深さ1.5m、床幅55cm、長さ20mの掘削溝の側面が長さ1.5m、地表からの深さ70cm、幅40cmに亘り崩壊し、掘削溝内で作業していた作業員のうち1人が崩壊した土砂と反対側の法面との間に挟まれた。	30199	30～ 49
2002	3	22 ～ 23	道路舗装工事に付帯する下水管埋設工事において、バックホーを用いて長さ6m、幅1m、深さ2mに掘削し、土止め支保工を設置するため未施工箇所に降りたところ、掘削片面の土砂が縦2.3m、横2.9m、奥行き0.4mにわたり崩壊し生き埋めとなった。	30106	10～ 29
2002	3	19 ～	高速道路のトンネル工事現場で、切羽上部より岩石(長さ2.5m、幅0.7m、	30102	50～

		20	重さ約4 t) が落下して、装薬作業を行っていた者を直撃した。		99
2002	4	14 ～ 15	坑口より約1000m付近でNATM工法により切羽掘削作業を行っていたところ、切羽が高さ約3m、幅約1.5mほど崩れて岩塊に直撃された。	30102	100 ～ 299
2002	4	11 ～ 12	基礎の掘削作業で深さ1.4mのところで床付作業を行っていたところ、壁面が突然崩落し土砂に埋まった。	30201	30～ 49
2002	1	15 ～ 16	完成したえん堤を撮影するため、えん堤上流側に降雨等により堆積した土砂をドラグショベルで掘削したのち、えん堤の最下部の床掘部分に残った土砂を2人でスコップ、ジョレンで平らに均す作業を行っていたときに、上部の法面が高さ約9m、約12mにわたり崩壊し生き埋めとなった。	30108	1～9
2002	1	15 ～ 16	完成したえん堤を撮影するため、えん堤上流側に降雨等により堆積した土砂をドラグショベルで掘削したのち、えん堤の最下部の床掘部分に残った土砂を2人でスコップ、ジョレンで平らに均す作業を行っていたときに上部の法面が高さ約9m、幅約12mにわたり崩壊し生き埋めとなった。	30108	1～9
2002	8	16 ～ 17	工場内の「防災池緊急拡張工事」の防災池内に設けられた取付道路をドラグショベルで走行していたところ、防災池の南斜面が崩壊したためドラグショベルが崩壊した土砂に押し流されて約10m下の防災池に転落し、崩壊した土砂に押しつぶされた。	30199	1～9
2002	4	14 ～ 15	店舗の改装工事で、屋外駐車場の下水管を敷設するため幅約80cm、長さ約7m、深さ約2mにわたり溝掘削を行って排水管（塩ビ製100mm）を敷設し、排水管の傾斜を確認して溝から出ようとしたときに、幅約70cm、長さ約4m、深さ約2mにわたり側面の土砂が崩壊し生き埋めとなった。	30203	10～ 29
2002	5	10 ～ 11	農業用水のボックスカルバート下に配水管を通す作業で、ボックスカルバートの南側を幅50cm、深さ約2m、長さ約2mにわたりパワー・ショベルで掘削し、掘った溝の中に入って人力で配水管を通す穴を掘削中に側壁が崩れ生き埋めとなった。	30110	1～9

2002	5	0 ～ 1	資材置場に積み上げられたコンクリートがら（高さ約12m、幅約50mm、奥行約9.5m）を処理するため、ダンプトラックの荷台にバックホーでコンクリートがらを移し替えていたところ、コンクリートがらの一部が崩れ落ちバックホーの運転手を直撃した。	150102	10～ 29
2002	7	15 ～ 16	林道開設工事の土砂捨て場において、谷側法面の整形作業を行っていた2台のドラグ・ショベルのうち1台のドラグ・ショベルを作業箇所から移動したときに、突然土砂が崩壊してドラグ・ショベルが運転席ごと埋まった。	30106	30～ 49
2002	7	7 ～ 8	治山工事現場に社用車で向かうため林道を走行中、林道沿いの法面が約50m上方で崩落し、落下してきた土砂に車が埋った。	30108	30～ 49
2002	7	19 ～ 20	防火水槽の掘削床付け完了後、水槽の位置出しのため2名で掘削法面の異常の有無を確認し墨入れ作業していたところ、敷き鉄板下の土砂が突然崩壊し1名が逃げ遅れた。	30201	1～9
2002	7	15 ～ 16	道路拡幅工事現場の法面で高さ約2m、幅約1.5m、奥行約0.5mの崩壊があり、退避後、上段で5名が吹付け法枠の枠内清掃を、下段でドラグショベルを用いて応急処置として崩壊部分に土を入れる作業を再開したところ、法面頂部より大規模崩壊が発生し1名が死亡した。	30106	1～9
2002	7	11 ～ 12	道路改良工事において、作業員6名が既存の掘削箇所で床掘りを行っていたときに、背後の地山が崩壊し1名が土砂に埋まった。	30106	1～9
2002	7	13 ～ 14	橋脚建設のため地山の掘削作業中（深さ約6m）、地山が崩壊し、土止め支保工の最上段の火打上で、中の作業を見ていた現場責任者が火打とともに掘削孔内に墜落し、崩れてきた土砂の下敷きになった。	30108	30～ 49
2002	7	10 ～ 11	台風で崩落土砂が堆積した町道の復旧作業において、崩壊箇所の上部にあった立木に親綱を取り付けて法面の浮石を除去し、町道管理者の確認検査に対応するため崩壊箇所の脇に安全帯を装着したまま待機していたところ、上方約20mほどの法面が崩壊して親綱を取り付けていた立木もろとも町道の約50m下まで流された。	30199	100 ～ 299

2002	8	14 ～ 15	伐倒した杉を搬出する道を開設するため、トラグショベルで地山の掘削作業を行っていたときに左側の地山が崩壊し（高さ約9m、幅約10m）、崩壊した土砂と立木で運転席を押し潰された。	60201	1～9
2002	4	16 ～ 17	農業用水管の設置工事において、管を敷設するため掘削された溝（幅40cm、長さ10m、深さ約3m）の中に入って作業を行っていたとき、地山の一部（高さ1.1m、幅1.7m）と地山の上に置かれた掘削土が崩壊し生き埋めになった。	30199	100 ～ 299
2002	9	11 ～ 12	岩石採取場の作業道を作るため、発破をかけた15分後に単独でドラグショベルを用いて作業を行っていたが、その後ドラグショベルが稼働していないことを同僚が不審に思い様子を見に行ったところ、斜面の崩壊で落下した石によりドラグショベルの運転席内で押しつぶされているのを発見した。	20201	10～ 29
2002	10	0 ～ 1	掘削箇所に下水道用の塩ビ管3本を設置する作業で、土止め用の矢板を設置して腹起こしを仮止めするため掘削箇所に入って作業を行っていたときに、掘削箇所の片側法面が長さ約10m、幅約1m、深さ約2.5mに亘って崩落し2名が埋まった。	30110	100 ～ 299
2002	10	0 ～ 1	掘削箇所に下水道用の塩ビ管3本を設置する作業で、土止め用の矢板を設置して腹起こしを仮止めするため掘削箇所に入って作業を行っていたときに、掘削箇所の片側法面が長さ約10m、幅約1m、深さ約2.5mに亘って崩落し2名が埋まった。	30110	100 ～ 299
2002	10	17 ～ 18	トンネル坑口より約700mの切羽において、ホイールジャンボのマンケージ（高所作業用かご）内でロックボルトの注入作業中、切羽鏡面より地山が約20?崩壊し土砂とマンケージの手すりとの間に挟まれた。	30102	30～ 49
2002	12	17 ～ 18	鉱山の廃土堆積場に新しい擁壁を建設するため、ドラグショベルで床掘りし同僚がブレーカーで擁壁を壊していたところ、上部の堆積された廃土が崩壊してブレーカーはその場で埋まり、ドラグショベルは約20m下の川に転落して廃土に埋まって2名とも死亡した。	30199	10～ 29
		17	鉱山の廃土堆積場に新しい擁壁を建設するにあたり、ドラグショベルで床掘		

2002	10	～ 18	りし同僚はブレーカーで擁壁を壊していたところ、上部の堆積された廃土が崩壊してブレーカーはその場で埋まり、ドラグショベルは約20m下の川に転落して廃土に埋まって2名とも死亡した。	30199	1～9
2002	10	～ 17	16 土砂崩れ防止工事において、降雨から法面を保護するため法面にブルーシートを掛けていたときに、法面（勾配53°）が高さ約9m、巾約15mにわたり崩壊し法面の下方にいた作業員が巻き込まれた。	30108	10～ 29
2002	6	～ 16	15 道路拡幅工事において、下段で高さ約2m、幅約1.5m、奥行約0.5mの崩壊があったのでいったん退避し、その後、上段で5名が吹付けと法枠の清掃を、下段でドラグショベルを用いて応急処置として崩壊部分に土を入れる作業を再開したところ、法面頂部で大規模崩壊が発生し、崩壊とともに転落した1名が落石（約1m）を腰部に受けた。	30106	1～9
2002	10	0 ～ 1	採石場で岩盤から岩を切り出す作業をジェットバーナーを使用して行っていて、崩落した岩（20?）に激突された。	20201	1～9
2002	10	～ 14	13 浄化槽の設置工事において、深さ約2mの明かり掘削溝内で掘削底の補強を行うため角材を設置していたときに、掘削面の土砂が幅2.6m、奥行0.6m、高さ2.3mに亘って崩壊し胸部まで埋まった。	30302	1～9
2002	11	～ 12	11 採石山において、次の発破の前作業としてドラグショベルで地面を均していたときに、岩盤が掘削面からはがれてドラグショベルを直撃し運転者が運転室内で押し潰された。	20201	1～9
2002	11	～ 17	16 落石防止用コンクリート擁壁の設置工事において、打設したコンクリート擁壁の型枠点検中に、山側法面の土砂（岩）が崩壊したため擁壁と岩との間に挟まれた。	30106	1～9
2002	12	15 ～ 16	排水管敷設工事において、社長と労働者6名でバックホーで掘削して排水管（径15cm×長さ4m）を敷設し、別のバックホーで埋め戻しながら作業を進めていたときに、横壁の土砂が約5.3mにわたり崩壊し、穴の中にいた4名のうち管の設置据付を行っていた3名が生き埋めとなり2名が死亡した。	30110	1～9

2002	12	15 ～ 16	排水管敷設工事において、社長と労働者6名でバックホーで掘削して排水管（径15cm×長さ4m）を敷設し、別のバックホーで埋め戻しながら作業を進めていたときに、横壁の土砂が約5.3mにわたり崩壊し、穴の中にいた4名のうち管の設置据付を行っていた3名が生き埋めとなり2名が死亡した。	30110	1～9
2002	12	14 ～ 15	林道開設工事において、法面が高さ約60m、長さ約50mにわたり崩壊したため、下方で打合せをしていた2名のうち逃げ遅れた1名が生き埋めになった。	30106	10～ 29
2002	12	14 ～ 15	雨水の浸透槽設置工事において、バックホーで掘削した部分（深さ約3m）に土止め支保工を設置するため、内部に入って作業中に地山が崩壊（約2.5?）し生き埋めとなった。	30199	1～9
2002	10	17 ～ 18	工場の工業用水管布設工事において、深さ約2.8mの溝内に布設した送水管の写真を撮って掘削構から出ようとしたときに、側壁が幅約6.7m、高さ約2.5mに亘って崩壊し、2名のうち1名が全身生き埋めとなった。	30199	1～9
2002	12	0 ～ 1	地下2.5mの位置に水道管（長さ6m、径1m）を埋設し、溶接が終って管末に止水栓を取り付けていたときに、土止めをしていなかった掘削溝の末端部が崩壊して身体の大部分が土砂に埋まった。	30199	1～9
2003	1	11 ～ 12	小学校の敷地内にある農園に通じるスロープ（高低差約70cm）を設置するため、2名で手作業による掘削を行っていたところ、崩れてきた土砂で生き埋めとなり1名が死亡した。	30199	1～9
2003	2	15 ～ 16	農道の拡幅工事において、地山を掘削したのち法面（のりめん）保護のためのブロック擁（よう）壁を築造するための床掘り作業をしていたところ、斜面（4分勾配：泥岩）が高さ9m幅9m厚さ50cmにわたり崩落し、生き埋めになった。	30106	10～ 29
2003	2	14 ～ 15	農業用排水路工事で、地下2.5m付近に塩ビ製の管（直径：25cm、長さ：4m）を埋設し、深さ1mほど埋め戻した後に支保工を取り除いて残りの埋め戻し作業を行っていたところ、アスファルト（厚さ5cmほど）路面下部の碎石部分が崩れてきて胸部付近まで埋まった。	30110	1～9

2003	2	10 ～ 11	新築住宅の浄化槽埋設工事において、ドラグ・ショベルで長さ3m60cm、幅1m50cm、深さ1m80cm掘削後に底部の地均しをスコップで行っているときに、建屋側の地山が長さ約2mにわたり崩れて生き埋めになった。	30309	1～9
2003	2	14 ～ 15	水道管（塩ビ管）布設工事において、ドラグ・ショベルで溝掘削を行った後に溝の中に入って塩ビ管（3m）を据え付け、退去しようとしていたとき片側の掘削面が幅約60cm、深さ約1.8m、長さ約7.3mにわたって崩壊し、胸まで土砂に埋まった。	30110	1～9
2003	2	16 ～ 17	マンホールの移設工事において、ドラグ・ショベルで掘削した溝（深さ2.7m、長さ6.1m、幅2.5m）の中でマンホールの位置出し作業をしているときに、掘削面が長さ3.8m、巾0.5m、高さ1.2mの範囲にわたって崩壊し、土砂の下敷きになった。	30110	50～ 99
2003	2	11 ～ 12	採石場で、火薬類を装填する穴を穿孔し終えて穿孔機に乗車して後方に移動中、上部の岩盤が崩落し下敷きになった。	20201	10～ 29
2003	2	10 ～ 11	ほ場整備関連工事において、農業用配水管を布設するために掘削した個所の土止め支保工を「作業し難い」ため、取り外して作業を行っていたときに、法面（のりめん）の一部が崩壊し土砂に埋まった。	30110	30～ 49
2003	3	11 ～ 12	道路の拡幅に伴う側溝の敷設工事で、地中にある排水管（コンクリート製外径50cm）をドラグ・ショベルで引き抜くため、ワイヤロープを掛けようとしていたときに、掘削個所の側面の土砂が崩壊して頭部から胸部が配水管に圧迫された。	30106	1～9
2003	3	0 ～ 1	新築分譲住宅建設工事で、浄化槽の据付けのため溝（幅約1.8m、奥行き約3.5m、深さ約1.8m）を掘削し、その中で厚さ約10cmに流し込んだ生コンを鍬(こて)で押さえていたときに、地山が崩れてきたため窒息死した。	30309	10～ 29
2003	3	11 ～ 12	法面（のりめん）復旧工事において、一人で作業していたときに地山が高さ2.3m、幅2mにわたり崩壊し生き埋めになった。	30199	1～9

2003	3	9 ～ 10	道路拡幅工事において、法面（のりめん）掘削箇所（幅約25m、高さ約3m）にL字よう壁を取付けるため、基礎コンクリート上で墨だし作業をしていたときに、法面（のりめん）が崩壊し土砂（高さ約3m、幅約3.9m、奥行き90cm、崩壊土量は約9・3）に埋まった。	30199	10～ 29
2003	5	7 ～ 8	NATM工法によるトンネル工事（延長334m）において、坑口から約110mの地点で切羽鏡面の発破準備作業としてホイールジャンボのバスケット上から切羽への装薬を行っていたときに、切羽の高さ1.1m、幅1.1m、約0.3m3の岩塊が崩壊して直撃された。	30102	100 ～ 299
2003	5	10 ～ 11	下水道築造工事において、深さ2.7mの掘削溝内で土止め支保工の腹起こしを設置していたときに、掘削溝の側面が崩壊し鋼矢板と腹起こしとの間にはさまれた。	30110	1～9
2003	6	10 ～ 11	急傾斜地崩壊対策工事において、3名でスコップ等を用いて土砂の搬出作業を行っていたところ、地山が高さ約6m、幅約10mにわたり崩壊し1名が死亡した。	30199	10～ 29
2003	6	11 ～ 12	道路に設置したドラグ・ショベルのバケットで生コンクリートのホッパーをつり上げ、法面（のりめん）下へ生コンクリートの打設作業中に、路肩および法面（のりめん）が崩壊したため、法面（のりめん）下で作業していた2名の下半身が埋まったので、ドラグ・ショベルを移動しようとブームを山側に旋回させたところ、さらに土砂が崩れてドラグ・ショベルが転落し、1名がドラグ・ショベルの下敷きになった。	30106	30～ 49
2003	6	9 ～ 10	下水道管布設工事において、ブレーカーとドラグ・ショベルによる掘削作業中に、掘削側面が崩壊し掘削床にいた者が生き埋めになった。	30110	10～ 29
2003	6	8 ～ 9	碎石場において、岩石を運搬するため積込み場所にダンプ・トラックを後進させていたときに、その付近にあった岩石が崩壊して運転席に激突した。	20201	1～9
		11	残土処分場の排水管の設置工事で、地山を掘削（幅33m、長さ5m、深さ5m）し、その中で3名がポリエチレン製の管（長さ5m、直径60cm）を敷設		10～

2003	7	～ 12	していたときに、法面（のりめん）の土砂幅6m、高さ約1.6m、土量10m3が崩壊し3名が埋まって1名が死亡した。	30109	29
2003	7	～ 14	13 農業用排水管路工事において、深さ約2.5mを掘削して土止め支保工を設置 するため溝内に入って軽量鋼矢板を建て込む作業を行っていたときに、掘削 14 個所の土壁が崩れ生き埋めとなった。	30110	1～9
2003	7	～ 15	14 下水道工事において、掘削溝(長さ約5m、深さ約1.8m、幅約0.6m)の床面に 下水管を敷設しているときに、掘削法面（のりめん）が約0.8m3崩壊し背中 15 まで土砂に埋まった。	30110	1～9
2003	7	～ 14	13 基礎工事で、H鋼杭の間に横矢板を入れるため約10mの深さのところを掘削 していたところ、土砂（約3～4m3）が流出したので土砂等を除去して11m 14 のところで横矢板の積み直し作業を実施していたときに、土砂（約50m3） が流出してきて生き埋めになった。	30199	1～9
2003	8	～ 16	15 治山復旧工事において、法面（のりめん）で伐採作業を行っていた作業者が 所定の休憩時間に法面（のりめん）の平らなところで休憩していたところ、 16 法面（のりめん）の上方で立木が倒れ、それにより生じたと見られる落石が 落下してきて左前頭部に当たった。	30199	1～9
2003	8	～ 14	13 林道脇の地山崩壊防止のための治山工事において、高さ約3mのコンクリー ト防護壁の型枠の取り外し作業中に、防護壁脇の法面（のりめん）（勾配約 ～ 60度）が幅約20m、高さ約10mにわたって崩壊し、防護壁と法面（のりめ 14 ん）との間で作業をしていた3名の労働者が、崩壊した土砂（崩壊土量約 250m3）の生き埋めとなり2名が窒息死した。	30199	10～ 29
2003	8	～ 14	13 林道脇の地山崩壊防止のための治山工事において、高さ約3mのコンクリー ト防護壁の型枠の取り外し作業中に、防護壁脇の法面（のりめん）（勾配約 ～ 60度）が幅約20m、高さ約10mにわたって崩壊し、防護壁と法面（のりめ 14 ん）との間で作業をしていた3名の労働者が、崩壊した土砂（崩壊土量約 250m3）の生き埋めとなり2名が窒息死した。	30199	10～ 29
		0	物流センターの雨水排水施設改修工事において、ヒューム管を敷設するため		

2003	8	～ 1	ドラグ・ショベルで溝（勾配約80度、幅210cm、深さ191cm、長さ15.8m）を掘って中で均し作業を行い溝内から出ようとしたときに、幅70cm、長さ6.3mにわたり側壁が崩壊し生き埋めになった。	30110	1～9
2003	8	14 ～ 15	道路法面（のりめん）の巨石破碎除去工事において、法面（のりめん）の岩盤部分（巨石）を発破するため削岩機を用いて岩盤部分を削孔する作業を行っていたときに、足元の岩盤部分が崩落し、使用していた親綱も切断したため崩壊した岩・土砂とともに墜落した。	30199	1～9
2003	10	～ 14	配水管布設工事で、配水管（塩ビ、長さ4m）を据付け土を埋めて固定する作業を終了したときに、土砂（高さ2.2m、幅45cm、長さ4.9m）が崩れ落ち、口の高さまで埋まった。	30199	10～ 29
2003	10	16 ～ 17	地すべり防止工事において、ドラグ・ショベルで南側斜面を深さ1.5m、約60度の勾配で床掘して暗渠（きょ）管を敷設し、吸出防止材を施す作業を3名で行っていたときに、南側斜面の地山（泥岩）が高さ6.1m、幅3.6m、奥行0.9m（推定土量約4m ³ ）にわたり崩壊し、1名が窒息死した。	30108	10～ 29
2003	10	9 ～ 10	国道斜面の災害復旧工事において、道路面から高さ約24mの地点で法面（のりめん）の浮石除去作業を3名で行っていて、8mの岩塊の上半分を前日まで小割して除去し、下半分の除去のため岩塊を支えていたワイヤロープを外しているときに突然岩が割れ、ワイヤロープ緊結用クリップを岩の個所で外していた者に岩（質量約1.5t）が激突した。	30108	1～9
2003	11	10 ～ 11	県道の災害防除・道路拡幅工事において、車両系建設機械のブレーカとドラグ・ショベルを交互に使用して道路上で三分に掘削した法面（のりめん）下の床掘り作業をしていたところ、高さ約18m、幅約10mにわたって法面（のりめん）が崩壊し、ブレーカと無人のドラグ・ショベルが土砂に巻き込まれて道路下9mに流れる川に転落し、土砂に埋まった。	30106	30～ 49
2003	11	12 ～ 13	下水道新設工事において、幅80cm、深さ2mに掘削した溝の中でスコップで床掘りをしていたときに、砂質土の側壁が幅2.25mにわたって崩壊し、続いて、崩壊した側壁の上にあったアスファルト塊（重さ約1.2t）が崩落して胸に激突した。	30110	30～ 49

2003	11	11 ～ 12	上水道管布設工事において、仮設上水管のボルト撤去作業中に掘削面の地山が崩壊し、撤去されていなかったアスファルトが滑り落ちてきて下敷きになった。	30110	1～9
2003	12	11 ～ 12	農道の舗装工事に伴う遺跡の有無の確認試掘において、掘削箇所（幅2m、長さ9.6m、深さ2.2m）の壁面を手ベラで仕上げ掘削していたときに、壁面が幅約2.2mにわたり崩壊し胸部が崩壊した土砂と壁面の間にはさまれた。	120109	100 ～ 299
2004	8	16 ～ 17	養豚場の浄化槽新設に伴い排水管理設作業（延長300m）を行っていた際に掘削溝が崩壊し、生き埋めとなった。	30110	1～9
2004	2	9 ～ 10	水路工事現場において、水路内に入り測量作業の補助作業を行っていたところ、前日に掘削した法面（のりめん）の上部が崩れ、さらに法面に設置していた鉄板（幅3m、高さ1.5m）が倒れて下敷きとなった。	30107	1～9
2004	9	17 ～ 18	林道開設工事現場で、法面（のりめん）のラス張りのためのアンカーピン打ちの作業中、法面（高さ約15m、長さ約20m）が崩れ、生き埋めになった。	30106	1～9
2004	10	16 ～ 17	ほ場整備工事において配水管を敷設作業中、掘削溝内で待機していた作業員2名が、崩壊した法面（のりめん）（幅約1m、長さ約22m、高さ約2m）の土砂に埋もれた。	30106	10～ 29
2004	10	16 ～ 17	ほ場整備工事において配水管を敷設作業中、掘削溝内で待機していた作業員2名が、崩壊した法面（のりめん）（幅約1m、長さ約22m、高さ約2m）の土砂に埋もれた。	30106	10～ 29
2004	3	13 ～ 14	道路工事等に使用する碎石を製造している事業場において、車両系建設機械（ブレーカー付ドラグシャベル）を使用し、採取した碎石を砕く小割り作業に従事していたところ、作業場所の上部の棚が崩壊し、機械ごと土砂に埋まった。	20201	10～ 29
2004	1	14 ～	民家宅地内において合併浄化槽の埋設工事を行うため、穴（深さ約2m）に入り、ならしの作業をしていたところ、穴内部の土砂が崩れその下敷きに	30110	1～9

		15	なった。		
2004	9	11 ～ 12	電話管撤去作業中、掘削箇所内部に立ち入った際、土砂崩壊が発生し生き埋めとなった。	30199	10～ 29
2004	2	14 ～ 15	下水道管敷設工事において、土止め支保工を設置するための深さ2.8m幅90cmの溝の中で、溝の壁をスコップでならす作業をしていたところ、片側の地山が崩壊し被災した。	30110	1～9
2004	12	11 ～ 12	マンションの基礎工事において、被災者が掘削底面で埋戻し作業を行うため、人通孔の養生を行っていたところ、ドラグ・ショベルのオペレーターが被災者の付近の地山を切り崩したため、被災者が土砂に埋没した。	30201	30～ 49
2004	4	9 ～ 10	地中配電線用管路敷設のため幅90cm、深さ2.2m、長さ11mの掘削を溝の底で作業中、土止め支保工のない掘削面が崩れ土砂で埋まった。	30301	1～9
2004	9	9 ～ 10	公園予定地内の防空壕の立入禁止柵修繕工事において、鉄骨の立入防護柵取り付けのため、既存の防護柵の解体作業中に、防空壕入り口の岩盤が崩落した。	170209	1～9
2004	11	15 ～ 16	分譲地の造成工事において、車両系建設機械（ドラグ・ショベル）で掘削した穴（深さ2.5m、幅5.5m、長さ6m）に入って、直径250mmの雨水管（塩ビ管）の敷設作業を行っていたところ、開削部分の中央に残していた高さ1.5mの地山の一部分が約5mにわたって倒れるように崩壊して被災した。	30109	10～ 29
2004	6	13 ～ 14	土止め支保工の変更作業中、既設の土止め支保工の親杭（H形鋼材、200×200×8×12mm）を杭頭から約5mの個所でガス溶断した際に親杭の裏側の土砂が崩壊して、下敷きになった。	30201	1～9
2004	10	14 ～ 15	農業用水路の管を付設するためドラグ・ショベルで溝（深さ1m）を掘削し、その溝の中に入り寸法確認、写真撮影を行っていたところ上部法面（のりめん）の地山（高さ5m）が崩落し生き埋めとなった。	30107	10～ 29
		14	農業用水路の管を付設するためドラグ・ショベルで溝（深さ1m）を掘削		10～

2004	10	15	し、その溝の中に入り寸法確認、写真撮影を行っていたところ上部法面（のりめん）の地山（高さ5m）が崩落し生き埋めとなった。	30107	29
2004	7	14 ～ 15	道路拡幅工事現場において、掘削部の床ならし作業を行っていたところ、掘削した法面（のりめん）上部の地山が崩壊し、生き埋めとなった。	30199	1～9
2004	2	16 ～ 17	農道拡幅工事において、道路谷側半分を掘削しL型擁壁を据え付けるために床掘り、床均しを行っていたところ、法面（のりめん）が長さ12m、巾0.5mにわたって崩壊し被災者が埋まった。	30106	1～9
2004	1	14 ～ 15	道路舗装工事現場において、掘削溝内（幅1.2m、深さ1.7m）で、農業用水配管の取替作業中、法面（のりめん）が崩壊し、溝内で作業していた2人が生き埋めになった。	30199	1～9
2004	1	14 ～ 15	道路舗装工事現場において、掘削溝内（幅1.2m、深さ1.7m）で、農業用水配管の取替作業中、法面（のりめん）が崩壊し、溝内で作業していた2人が生き埋めになった。	30199	1～9
2004	3	8 ～ 9	林道開設工事現場において、地山の掘削・法面（のりめん）整形工事を行った後、法尻にU字溝敷設のため、法尻にて被災者が床均しをしていたところ、法面が高さ約12m、幅3mにわたり崩落し、その土石により被災者は埋没した。	30106	1～9
2004	11	9 ～ 10	鉄筋7階建てビル新築工事現場において、基礎部分の掘削（最深部250cm）および矢板の設置作業を被災者ら3名で行っていたところ、突然掘削側面の上部から土砂が崩れ落ち、そのまま土砂に埋まった。	30201	10～ 29
2004	2	2 ～ 3	公共下水道の下水管敷設工事において、道路掘削中、地山が崩壊し、下敷きとなった。	30110	1～9
2004	11	16 ～ 17	コンクリートの堤防設置工事において、測量作業中、事前に掘削し終えていた掘削面（高さ約2.5m、3分勾配）の岩石が、その上部とともにいきなり大量に崩落し、被災者が巻き込まれた。	30109	30～ 49

2004	10	16 ～ 17	台風が接近してきて親会社の裏山から流水が流れてきたため、土嚢を積み排水溝に水が流れるようスコップを使い山からの流水の流れを変えていたところ、土砂崩壊に巻き込まれた。	40309	30～ 49
2004	9	9 ～ 10	タイヤリサイクルセンターの敷地内で、コンクリートブロック擁壁の設置工事のため、設置個所の敷砂を敷均中、既存の3段積コンクリートブロック擁壁（重量1.35t）が倒壊し被災者にコンクリートブロックが直撃した。	30209	1～9
2004	9	10 ～ 11	浄化槽を設置する作業において、掘削した場所（直径約5m、深さ約3m）に槽を設置後、槽の設置個所補強のための支柱のベース配筋にたまった土砂を取り除く作業を行っていたところ、地山の崩壊防止措置が講じられていなかったため地山が崩壊し、被災者が崩壊した地山に埋まった。	30209	1～9
2004	11	13 ～ 14	投入口に鉄製の棧がついたホッパー上で、棧に詰まった砂塊を唐鍬で碎き落としていたが、唐鍬を棧の間から落としたため、取り出そうと機械を止めずにホッパー内に入ったところ砂に埋もれた。	20202	10～ 29
2004	7	11 ～ 12	堆肥舎新築工事現場において、基礎床掘の整地作業を行っていた被災者が、法面（のりめん）（高さ約3m）の土砂崩壊によって生き埋めとなった。	30199	1～9
2004	11	11 ～ 12	予防治山事業現場において、砂防ダムの前堤付近で型枠の脱枠作業等を行っていたところ、前堤設置個所の左岸法面（のりめん）上方の地山が突然地滑りを起こし、作業員4名が土砂に流され、1人が土砂に生き埋めとなった。	30108	10～ 29
2004	1	11 ～ 12	排水路敷設工事現場において、道路下をドラグ・ショベルで床掘した後、床掘内で土止め材を設置する作業中、床掘した地山が幅6m、高さ1.2mにわたり民家の石積塀（高さ1.6m）とともに崩壊し、倒れ落ちた石積塀と道路中央側の掘削面との間に挟まれた。	30199	10～ 29
2004	12	13 ～ 14	下水道工事現場で、掘削の深さが約3.7mの溝内に土止め支保工を設けなまま床ならし作業を行っていたところ、掘削面が崩壊し土砂で生き埋めとなった。	30110	1～9
		17	管水路工において、法面に沈下防止用土木安定シートを敷設する作業中、左		30～

2005	11	～ 18	岸に積み上げていた掘削土と側壁が崩壊し、当該作業を行っていた被災者らが土砂に巻き込まれた。	30109	49
2005	11	～ 18	管水路工において、法面に沈下防止用土木安定シートを敷設する作業中、左岸に積み上げていた掘削土と側壁が崩壊し、当該作業を行っていた被災者らが土砂に巻き込まれた。	30109	30～ 49
2005	11	～ 18	管水路工において、法面に沈下防止用土木安定シートを敷設する作業中、左岸に積み上げていた掘削土と側壁が崩壊し、当該作業を行っていた被災者らが土砂に巻き込まれた。	30109	30～ 49
2005	7	～ 15	ドラグ・ショベルにてずり出し作業中、上部法面が崩壊し、運転席から降りて脱出しようとしたが、土石に巻き込まれ、生き埋めとなった。	20201	10～ 29
2005	1	～ 12	碎石場で石を小割りしていた時、当該崖から崩れ落ちた巨石（重さ20トン）が、当該ブレーカーに激突し、運転席の被災者が押し潰された。	20201	10～ 29
2005	1	～ 15	町道の拡幅工事現場において、土止めのために入れてあった鉄板が土砂に押され、溝の中で床均しを行っていた被災者が鉄板と町道の端のアスファルトとの間に挟まれた。	30106	1～9
2005	12	～ 11	下水管本管に枝管を敷設するため、掘削箇所内で作業を行っていたところ、周囲の埋戻し土砂が崩落、腰まで土砂に埋まった被災者を救出しようとしたところ、さらに土砂が崩落し、生き埋めとなった。	30106	10～ 29
2005	11	～ 15	農業用水路の災害復旧工事現場において、地山斜面下の土止め用大型フトン籠の中で、詰石作業を行っていたところ、地山法面が崩壊し、逃げ遅れた被災者らが生き埋めとなった。	30199	10～ 29
2005	11	～ 15	農業用水路の災害復旧工事現場において、地山斜面下の土止め用大型フトン籠の中で、詰石作業を行っていたところ、地山法面が崩壊し、逃げ遅れた被災者らが生き埋めとなった。	30199	10～ 29
		11	配水管埋設作業において、配水管を設置後、埋戻しを行うために掘削箇所		

2005	3	～ 12	(幅2m、深さ3m) から移動しようとしたところ、法面が崩壊し、生き埋めとなった。	30109	1～9
2005	9	8 ～ 9	民家敷地内の擁壁設置工事現場において、溝をドラグ・ショベルで掘った後、被災者が溝に入り、建物側の地山に土止めのためのコンパネを置いて、前日に施工した場所の土止め支保工の部材を取り外したところ、建物側の地山が崩壊したため被災者が土砂に埋まった。	30199	10～ 29
2005	4	17 ～ 18	工場敷地内にある沈殿槽のコンクリート壁を改修するため、沈殿槽の外側をドラグ・ショベルにて掘削した後、床均し等を行っていたところ、掘削法面が崩れ、落ちてきた岩石が当たった。	10909	10～ 29
2005	12	16 ～ 17	排水管設置の準備作業において掘削幅(約2mm、深さ2.5m)内に入り、丁張り作業を行っていたところ、掘削した面が崩落し、被災者らが埋まった。	30109	100 ～ 299
2005	6	14 ～ 15	ほ場整備工事において、水路確保のためのヒューム管敷設作業中、埋め戻しのためのドラグ・ショベルの旋回範囲から離れるため、被災者が移動した直後、土砂が崩壊し埋まった。	30109	10～ 29
2005	3	14 ～ 15	池改修工事現場において、被災者がドラグ・ショベルを用いて掘削し、小石を敷く作業中、深さ2.5mの掘削場所に立ち入ったところ、掘削盛土等の地山が崩壊し、生き埋めとなった。	30106	10～ 29
2005	4	16 ～ 17	碎石作業中に、10日前にクサビを打ち放置していた岩石(縦横10m、高さ6m)が崩壊し、岩石下方にいた被災者が、クサビを打つために岩石上に足場として積載していた土砂あるいは岩石によって押し出された土砂に埋もれた。	20201	1～9
2005	6	9 ～ 10	浄化槽設置のための掘削作業の際、掘削箇所底部(深さ3m)のポンプが詰まったため、掘削箇所底部に下りたところ、背後法面の土砂が崩壊した。	30202	1～9
2006	1	14 ～	下水道管理設工事の作業で、ドラグ・ショベルで砂の埋め戻し作業をしていた。掘削した溝を跨ぐようにドラグ・ショベルを配置していたが、左側の	30106	1～9

		15	キャタピラ下部の路肩が崩壊し、構内で砂のならし作業をしていた被災者がドラグ・ショベルのバケットと土止めの切りばりに挟まった。		
2006	1	0 ～ 1	土砂採取場において、法面上部にハの字型の亀裂（長さ10～15m）が2本入っているのを発見したため、ドラグ・ショベル3台を使用して法面の崩壊を防ぐため、土盛り作業を行っていた際、法面50m、幅80m、高さ30m（土量120,000立方メートル）の土砂が崩壊して車両ごとオペレーター3名が被災し、2名が死亡した。1名は、自力で脱出した。	20202	50～ 99
2006	1	14 ～ 15	逆打工事の2次掘削で被災者は地下1階部分を掘削機で掘削していたが、上部捨コンから5メートル弱の掘削中に上部から（型枠工事に使った）単管パイプが落ちたため、立入り禁止区域に入り片付けていたところ、上部の土砂が崩れ下敷きになった。	30201	50～ 99
2006	2	11 ～ 12	急傾斜地崩壊対策工事の現場内において、現場代理人の被災者と1次下請業者の労働者1名が、重力式擁壁の型枠の位置決めをするための測量作業を下法尻にて行っていたところ、斜面上方から高さ約10メートル、幅約15メートル、深さ約1.5メートルにわたり法面が崩壊し、被災者が死亡した。	30199	10～ 29
2006	2	16 ～ 17	マンション新築工事現場において、貯水槽設置時に設けた土止め支保工の背板盛りかえのため、ドラグ・ショベルで地山を約3.5mまで掘削した後、被災者が掘削溝底面において土止め支保工の親杭付近の地山を手掘り掘削していたところ、掘削面が深さ約3.5m、幅約1m、長さ約2mにわたり崩壊し、被災者が生き埋めとなった。	30201	30～ 49
2006	4	16 ～ 17	水田に農業機械搬入田スロープを砂を用いて埋め立てて造るため、地域の共有地である砂採取場から砂を手掘りで掘削していたところ、突然地山が崩れ、被災した。	30199	1～9
2006	4	17 ～ 18	露天掘り・階段採掘現場で、被災者は、ドラッグショベルを使用して作業に従事していた。作業終了間際に、パラパラと小石が落下してきたため、法尻にいた作業者が無線機で被災者に「崩れるからにげろ。」と呼びかけた直後に、法面が崩れ運転席付近に岩塊が落下し、被災者は運転席から投げ出さ	20201	10～ 29

			れ、死亡した。		
2006	4	15 ～ 16	圃場整備工事の現場において、ヒューム管設置作業を行っていたところ、地山（高さ約3 m、幅約4.5 m、厚さ50 cm）が崩壊し作業員3名が生埋めとなった。（死亡1名、休業2名）	30109	10～ 29
2006	3	13 ～ 14	ヒューム管を埋設するため、深さ約3メートルの掘削を重機で行っていた。床付け状況（平坦さや掘削深さを測量する）を確認するために、被災者が掘削底部に入っていたところ、土砂が崩壊した。	30105	1～9
2006	4	14 ～ 15	汚水枡から下水道本管へつなぐ枝管敷設にかかる作業のため、深さ約70センチ、幅約65センチの掘削坑に被災者がいたとき、隣地駐車場に設置されたコンクリート基礎および一段積みのブロックが土砂とともに崩壊し、被災者がはさまれた。	30110	1～9
2006	5	15 ～ 16	宅地造成工事において、幅約1.2メートル、奥行き約10メートル、深さ約2メートルを掘削し、この中で配水管敷設のための計測作業を行っていたところ、奥行き約2.7 m、幅約0.6 m、高さ約2 mにわたる地山が崩れ、しゃがんでいた被災者が埋まった。	30199	10～ 29
2006	5	10 ～ 11	宅地造成工事において下水管を布設するため、幅1.1メートル、深さ約2メートルの管路を長さ11メートルに渡りドラグ・ショベルで掘削作業中、被災者がスコップを用いて管路内で床均し作業を行っていたところ、掘削した管路東側が幅約6メートルに渡って崩壊し、土砂に埋もれた。	30110	1～9
2006	6	14 ～ 15	集中豪雨により加工所裏のがけが、高さ約8メートル、幅約20メートル、奥行き約10メートルにわたって崩れ、加工所（鉄骨スレート平屋）内で作業していた3人が被災し、1人が死亡、2人が重傷を負った。	10401	10～ 29
2006	6	11 ～ 12	民家の擁壁工事にあたり、高さ約4 m、勾配65度の土手の下部を深さ約1.4 m、幅約1.4 mに掘削した内部に作業員2名が入り、手掘りで柱状改良杭周囲の掘削作業を行っていたところ、法面が幅約4 m、高さ約4 m、奥行き約0.8 mにわたり崩壊し、2名が被災した。	30199	10～ 29
		11	民家の擁壁工事にあたり、高さ約4 m、勾配65度の土手の下部を深さ約		

2006	6	～ 12	1. 4 m、幅約 1. 4 mに掘削した内部に作業員 2 名が入り、手掘りで柱状改良杭周囲の掘削作業を行っていたところ、法面が幅約 4 m、高さ約 4 m、奥行約 0. 8 mにわたり崩壊し、2 名が被災した。	30199	10～ 29
2006	7	～ 16	15 林道開設工事現場で、掘削の際にでた岩をブレーカーで小割する作業を行っていた被災者が、次ぎの作業までの間を車内で待機していたところ、突然法面が崩壊し、被災した。	30106	30～ 49
2006	7	～ 14	13 被災者はドラグ・ショベルを運転し、雨で崩れた林道の整地作業をしていたところ、林道の路肩が崩れ、ドラグ・ショベルごと転落、運転席から投げ出され、重機と山の斜面との間に挟まれた。	60209	1～9
2006	7	～ 11	10 住宅新築工事現場において、ブロック塀基礎コンクリートの掘削床面（深さ約 5 0 c m）で、コンクリートの上に型枠建て込み作業中、隣地に 2 段から 3 段に積まれていたコンクリートブロック（一辺約 8 0 c mの立方体、重さ約 1. 3 トン）が掘削面側に崩れ、被災者はコンクリートブロックの下敷きになった。	30202	1～9
2006	9	～ 12	11 污水管渠敷設工事において、幅 1. 3 m、深さ 2. 5 m、長さ（南西－北東方向）2 5 mの掘削底面で被災者ほか 1 名が 5 本目の雨水管を土嚢を使って固定し終えた時に、地山の掘削側面（南東側長さ 1. 5 m高さ 1 m奥行き 0. 5 m ほど）が崩壊し、被災者が北西側の掘削側面と崩壊した土砂に挟まれた。	30110	30～ 49
2006	9	～ 12	11 浄化槽埋設のため 3. 5 メートル× 1. 6 メートル、深さ約 2 メートルの穴を機械堀りしたあと、床ならしのため被災者が穴の底に入り、鍬で作業中に側壁が崩壊し、土砂に埋もれた。土砂の量は 1 立方メートル程度。	30201	1～9
2006	10	～ 10	9 貯水槽を設置するため掘削作業中、被災者が深さ 4 mの掘削溝に落下したコンクリートの一部を除去するために、当該掘削溝の中で作業を行っていたところ、地山の側面が崩壊して生き埋めになった。	30199	1～9
2006	10	8 ～ 9	道路工事現場において、ブレーカー装着のドラグ・ショベルにて現場内を移動中、法面の岩盤が崩落しドラグ・ショベルごと埋まった。	30106	10～ 29

2007	10	10 ～ 11	下水道管の敷設工事で、被災者は深さ約2.6m、幅約1.2m、長さ約7.2mにわたって掘削した溝に入り、下水道管の敷設位置の調整作業を行っていたところ、法肩の一部（高さ、幅とも30～40cm程度）が崩落し、土砂に埋まった。なお、地表面から深さ約1mまでの箇所には土止め支保工が設けられていなかった。その後、搬送先の病院で死亡した。	30110	10～ 29
2007	7	13 ～ 14	新築住宅用の下水道管新設工事において、ビニール管（Φ20×4m）を設置中、地山（幅60cm×深さ165cm×長さ7.9m）が全長にわたって崩壊し、土砂に埋もれて死亡した。なお、土止め支保工に使用する矢板は現場に持ち込んでいたが、使用していなかった。	30110	10～ 29
2007	12	9 ～ 10	坑口より約550m地点の崩壊防止用のモルタルが全面に吹き付けられている切羽下部において、発破の装填作業中、切羽の高さ約6mの断面から幅約3m、高さ約3m、厚さ30cmにわたり崩壊防止用モルタル及び地山の一部が崩落し被災者に当たった。	30102	10～ 29
2007	2	12 ～ 13	宅地造成工事現場において、L型擁壁築造のためドラグ・ショベルを用いて地山を掘削したところ、高さ5.2m、勾配62度の掘削法面が崩壊し、法面下部のL型擁壁基礎部分の床付け部分にいた作業者が死亡した。	30109	1～9
2007	9	10 ～ 11	治山ダム工事現場において、法面上にあった立木を除去するため、当該立木にワイヤロープをかけ退避し、ドラグ・ショベルを使用して立木をひっぱり落とすと同時に地山が高さ約25m、幅15mに渡り崩壊した。この土砂崩壊により、地山上にいた作業員2名が地山から転落し土砂に埋まり1名が死亡、1名が休業見込み6ヶ月の負傷となった。	30108	10～ 29
2007	3	10 ～ 11	災害復旧工事現場において、被災者が車両系建設機械（ドラグ・ショベル）を使用して、ケーブルクレーンのアンカー設置のための穴を掘削（掘削勾配は約90度）作業中、当該掘削溝内部に被災者が立ち入ったところ、掘削法面が崩壊し、被災者が崩壊した土砂に埋まった。	30302	10～ 29
2007	2	14 ～	配水管更新作業において、掘削作業中、深さ約2mにある既設配水管を破損させないように手掘り作業をしていた。土止めが設置されていなかったため、	30110	1～9

		15	突然地山が崩壊し、土砂に埋められた。		
2007	2	14 ～ 15	下水用配管の埋設作業のため、ドラグ・ショベルで深さ約2.7mを掘削していたところ、土砂崩壊により埋まった。	30201	1～9
2007	9	11 ～ 12	被災者が、深さ約2.2mの掘削床に設置されたボックスカルバートの上に 乗ってボックスカルバートの側面の目地込め作業を行っていたところ、土砂 が崩壊し、その塊が被災者を直撃した。	30109	1～9
2007	10	16 ～ 17	管敷設作業において、ドラグ・ショベルで掘削した法面が約4.2m×約1 mにわたって崩壊し、掘削溝の中（深さ約2.3m）で作業していた作業 者2名のうち1名が埋まった。	30201	1～9
2007	6	11 ～ 12	下水管布設工事において深さ4mの掘削床に下水管を設置するため、被災 者は掘削床で下水管の調整作業をしていたが、一部掘削面が崩壊し、下 敷きになった。	30110	1～9
2007	7	8 ～ 9	農道築造のため、山の法面の木を伐採し、そこに金網と鉄筋で枠を組み、そ れにコンクリートを吹き付ける工事で、被災者を含む約6名が上部の鉄筋を 取り付ける工事を行っていた。工事場所より上面約5mをモルタルで補強 し、2本の親綱を下ろして安全帯を着用して作業していたが、突然、法面が 崩落した。被災者1名が土砂の中に生き埋めになった。	30199	10～ 29
2007	2	11 ～ 12	住宅地区改良工事現場で以前埋設していたポリエチレン管に新たにポリエチ レン管を接続するため深さ約1.9mの地点で管口を掃除していたところ、 掘削面が崩壊し、崩壊した土砂に押され管口に激突した。	30110	10～ 29
2007	9	13 ～ 14	下水道管の新設工事のためドラグ・ショベルで掘った幅80cm、深さ2.3mの溝の中に被災者が1人入り、溝床面の整地作業を実施していたところ、側壁の一部が崩壊し、その土砂と側壁との間にはさまれた。	30110	1～9
2007	2	15 ～ 16	深さ約3.1mの箇所に設置されている仮排水管の撤去作業をドラグ・ショベル運転者と被災者で行っていたところ、仮排水管の上にいた被災者が、崩 れた土砂に埋もれた。	30109	10～ 29

2007	2	12 ～ 13	上水道用配管を埋設する工事において、市道の一部を幅約0.9m、深さ約1.4mに掘削した箇所で配管同士のジョイント部分のボルト締め作業中、被災作業員の側面の掘削面が崩落し、土砂の塊の下敷きとなった。	30110	1～9
2007	4	9 ～ 10	台風により崩壊した道路・法面の改修補強工事現場において法面を掘削し、付近で地ならし、杭打ち作業をしていたところ、土砂崩壊が発生し、被災者が巻き込まれた。	30106	10～ 29
2007	11	19 ～ 20	市道脇の斜面上で、簡易水道の水道管に水漏れがないか確認していた作業員が、幅約1.4m、高さ約1.5mに渡って崩落した当該斜面の土砂の生き埋めとなり死亡した。	30110	10～ 29
2007	9	16 ～ 17	通信設備工事中、マンホール設置のために車両系建設機械を使用して2.35m掘削し、土止め用鋼製矢板打設中に掘削面の一部が崩壊し、作業員が土砂で生き埋めとなった。	30301	10～ 29
2008	6	8 ～ 9	法面にモルタル吹付作業を行うための準備作業を行っていたところ、震度6の地震が発生し、被災場所の上方で土砂崩壊が発生して落ちてきた岩石が被災者に当たり死亡した。	30101	1～9
2008	6	8 ～ 9	山肌に落石防護の金属製ネット（ロープネット）を張る工事において15名の作業員が作業場所に向かって移動中に地震が発生した。先行して法肩まで到着していた3名が通路を含む法面の崩壊に巻き込まれて約60～70m下まで転落した。	30199	10～ 29
2008	6	8 ～ 9	山肌に落石防護の金属製ネット（ロープネット）を張る工事において15名の作業員が作業場所に向かって移動中に地震が発生した。先行して法肩まで到着していた3名が通路を含む法面の崩壊に巻き込まれて約60～70m下まで転落した。	30199	10～ 29
2008	6	8 ～ 9	山肌に落石防護の金属製ネット（ロープネット）を張る工事において15名の作業員が作業場所に向かって移動中に地震が発生した。先行して法肩まで到着していた3名が通路を含む法面の崩壊に巻き込まれて約60～70m下まで転落した。	30199	10～ 29

2008	3	10 ～ 11	水道管埋設工事の際、深さ約2.1mの箇所です留めをすることなく手掘りで掘削作業を行っていたところ、東側の掘削面が崩壊して土砂に埋もれて死亡した。	30110	1～9
2008	10	11 ～ 12	河川改良工事において、河床に堆積した少量の土砂を取り除いた後、市道上で次の作業の指示を待ちながらドラグ・ショベルにオペレーターが搭乗したまま待機していたところ、突然、法面が崩壊してドラグ・ショベルが転落した。その際、昼食のため上流の左岸側に設置してあるはしごへ向かって河床を歩いていた被災者が崩壊に気づき避難しようとしたが、転落してきたドラグ・ショベルのアーム部分と左岸のブロックにはさまれ死亡した。	30107	10～ 29
2008	10	14 ～ 15	下水道管を埋設後、土止め支保工の撤去を行い、溝内にて玉掛準備作業を行っていたところ、高さ2.1～2.2mの地山が崩壊して被災者が生き埋めになった。	30110	10～ 29
2008	9	13 ～ 14	公共下水道の管渠築造工事において、深さ約2.7m、幅2.8m、長さ7.5mに掘削し、土場で組み立てられた幅2m、高さ1.5mの鋼製土止め支保工を2組入れ、土止め支保工内の掘削底面の床ならしを行っていた。被災者が土止め支保工のないところに出た時、掘削面が崩壊して被災者の胸のあたりまで崩壊土砂に埋まり死亡した。	30110	1～9
2008	3	9 ～ 10	污水管を敷設するため、地山をドラグ・ショベルで深さ約2m、幅約1m、勾配約90度（ほぼ垂直）に掘削したところ、湧水が確認されたため、被災者が掘削部分へ降りた際、地山が崩壊し生き埋めとなった。	30199	10～ 29
2008	8	18 ～ 19	被災者がコンクリートの骨材の貯蔵槽の中に入り、その内周に付着した砂を掻き落していたところ、砂が崩壊して1.2mほど埋まり死亡した。この作業は、骨材置場の地下のベルトコンベヤーの下部等に落ちた廃骨材を一時的に同槽内に入れたものを清掃する作業であった。	10901	1～9
2008	11	14 ～ 15	下水道工事現場の深さ約4mのたて坑内において、土止めのライナープレートを設置するための掘削作業及び地ならし作業を2名で行っていた。その際、たて坑内西側の土砂が崩壊し、その反動で下水道管下部の基礎コンクリートの一部（重さ1.3t）がはぎ取られて被災者が当該コンクリートと土砂	30110	10～ 29

			との下敷きになり死亡した。		
2008	8	15 ～ 16	地山掘削作業の準備作業として法面に進入路を作成するために、ドラグ・ショベルで法面を掘削していた。その際、ドラグ・ショベルから5m上方の掘削面が崩壊し、被災者がドラグ・ショベルの運転席内部で生き埋めになった。	30199	10～ 29
2008	10	12 ～ 13	被災者が直径60cmの鋼管杭のガス切断作業を行っていたところ、被災者の後方にあった高さ約5mの掘削法面の上部から土が被災者に落下して死亡した。	30201	1～9
2008	4	16 ～ 17	鑄鉄管を深さ1.8mの位置に埋設した後の掘削溝の埋め戻し作業中、被災者が同溝の中に入り、碎石の均し作業を行っていたところ、地表のアスファルト塊（約140kg）が崩れ落ちて被災者に当たり死亡した。災害発生時、掘削溝は深さ約0.9mまで埋め戻されていたが、矢板等は設置されていなかった。	30110	10～ 29
2008	11	16 ～ 17	翌日に竣工検査が予定されていた河川の水路新設工事において、現場監督である被災者は、発注者への報告用の現場の全景写真を撮影するため上流の小さく高くなった木々の中に分け入った。その際、足元の天然石（最大幅70cm弱）が崩れ落ちた。飛び降りた被災者に崩れ落ちた天然石が激突して死亡した。	30107	10～ 29
2008	3	11 ～ 12	水道連絡管φ1000敷設工事において、ドラグ・ショベルで約3m掘削していた。掘削箇所脇の道路で大型トラック、トレーラー等が通行したため、掘削箇所に幅2cm、長さ約2mの亀裂が入った。そのため、土止め支保工の設置をすることとなり、矢板を3本打ち、被災者が掘削箇所で腹おこしの取付作業を行っていた。その際、土砂が崩壊して腹おこし材とドラグ・ショベルアーム部との間にはさまれて死亡した。	30110	10～ 29
2008	8	11 ～ 12	導水管敷設の際、ドラグ・ショベルで管の荷降ろしするため被災者が掘削箇所に立ち入り、玉外し作業を行っていた。その際法面の岩石が崩落して被災者の足に激突した。被災者が救助の声を上げたため、現場代理人が救助のため溝に入ったところ幅1m高さ50cm推定重量500kgの岩石が2名の上に落下	30106	1～9

			して被災者が死亡した。現場代理人は重傷を負った。		
2008	1	14 ～ 15	河川の災害復旧護岸工事で被災者が石積みの裏丁張りを設置するために天端法肩にいたとき、足元の地山が崩れて4.4m下に墜落した。	30107	10～ 29
2009	1	21 ～ 22	被災者含め4人は、切羽上半部の発破作業のため、ドリルジャンボを使用し、穿孔、火薬の装てんを終え、被災者が切羽下端部の結線作業を行っていたところ、切羽上方約4mから岩塊（重量約360kg）が肌落ちし、被災者を直撃した。	30102	10～ 29
2009	9	15 ～ 16	下水道工事現場において、簡易土止めのパネルを設置する作業中、被災者は掘削した溝の法肩部分に立っていたが、立っていた部分が崩れ、崩れた土砂とともに溝内（深さ約3.5m）に転落し、崩れた土砂に埋まった。	30110	1～9
2009	2	11 ～ 12	基礎杭の周囲をドラグ・ショベルで掘削後、地表から深さ約2.5mの箇所で杭の周囲の隅部等をスコップを使い掘削していたところ、幅約7.2m×高さ約1.5m×奥行約0.5mの土砂が崩壊し、その土砂に押され杭に激突した。	30201	10～ 29
2009	12	13 ～ 14	重機オペレーターである被災者は、採石場でドラグ・ショベルを操作して掘削し、ダンプに積み込む作業を行っていた。重機内で昼食休憩中に便意を生じ、掘削した地山近くで排泄しようとしたところ、地山が崩壊し、土砂に埋もれた。	20202	10～ 29
2009	12	9 ～ 10	側溝を敷設するためドラグ・ショベルで幅約1m、深さ約1.5mの溝を掘削していたところ、地山が崩壊し法肩に仮置されていたコンクリート製の溝（重さ1070kg）が落下し、溝内で床付作業をしていた被災者を直撃し、身体をはさまれた。	30199	10～ 29
2009	10	9 ～ 10	ずい道現場の切羽先端において、ドラグ・ショベルで掘削した脇に残った下部の土砂を手作業で掘削していたところ、切羽の土砂（約20立方m）が崩壊し被災した。その後救急搬送された病院において翌日午後死亡した。	30102	30～ 49
2009	9	15 ～	既設の鋼管杭を撤去するため、鋼管杭の周囲を掘削し簡易矢板を打ち込んでいたところ、掘削内に湧水がたまったため排水ポンプで排水していたが、ポ	30107	1～9

		16	ンプに砂が詰まるのを防ぐため被災者がポンプの周りの砂を取り除いていたところ、矢板の打っていない掘削面が崩壊した。		
2009	5	12 ～ 13	道路上に災害発生当日午前には落石が発生、道路復旧のため、既存の落石防護ネットの端からネットのない部分に防護ネットを張る作業にあたっていた5人のうち、1人が落石に巻き込まれ死亡した。当時、人の頭大の石約20個が落石しており、落石発生元は被災場所上方約80mに位置する古道の石垣等である。	30106	10～ 29
2009	10	11 ～ 12	崩壊地対策工事現場（平均勾配45度、最急勾配60度）において、一次下請事業場の作業員5人が、ほぼ横一列に並んで地上（川面）から約130mの高さの位置で、法面清掃作業（親綱に身体を固定した状態で、主として手作業により、法面の転石や浮石を払い落したり、草を抜いたりする作業）を行っていたところ、突然、岩塊（縦横約10m程度）が崩落し、5人のうち途中で作業を行っていた3人が死傷した。	30108	1～9
2009	8	9 ～ 10	ドラグ・ショベルを用いて山を掘削している時、掘削面が崩壊して代表者を含む2人が土砂に埋まり死亡した。	30199	1～9
2009	2	11 ～ 12	排水溝設置工事現場において、道路脇を幅120cm、深さ103cm、長さ730cmに明かり掘削した溝の中で、被災者2人が地均しを行っていたところ、法面が幅280cm、奥行40cmにわたって崩れて、さらに法面上方に重ねて置かれていたコンクリート製の側溝とコンクリート板（総重量約1t）が落下して被災者に激突した。	30110	30～ 49
2009	9	9 ～ 10	民家裏の予防治山工事（山腹崩壊危険地の崩壊を防止するためのもの）現場において、高さ2.6m、掘削勾配78度の砂岩層の地山をドラグ・ショベル及びピックハンマーで掘削後、ドラグ・ショベルで掘削した土砂を寄せていたところ、ドラグ・ショベルの前方の掘削面の地山から岩塊が崩れ落ち、地山の下方にいた被災者を直撃した。	30108	10～ 29
			老朽化した配水管の代わりに新しい配水管を敷設する工事において、既存の配水管の位置を測定する必要があるため、幅1.14、長さ4.0、深さ		

2010	2	13 ～ 14	2. 6 mを掘削し、既存の配水管がどの方向に伸びているか調べる作業をしていた。被災者は掘削してできた溝の中に入り発信器を配水管に近づけて出力の調節をしていたところ、溝内の山側の地山1. 4×3. 05×0. 4 mが崩壊し、土砂が被災者の上に落ちてきて生き埋めとなった。	30110	1～9
2010	3	15 ～ 16	長さ約8 m、幅約5 m、深さ約5. 5 mの掘削溝内で、3名が配管取替作業をしていたところ、掘削面が崩壊し1名が死亡した。降雨により地盤が緩み、有効な土止め支保工をしていなかった。	30199	1～9
2010	4	14 ～ 15	試掘調査作業中、深さ約2 m、幅約1. 8 mの開削内で掘削面の崩壊防止措置を講じないまま整地作業を行っていたところ、掘削面が崩れ生き埋めとなった。救出し、病院に搬送したが死亡した。	170209	10～ 29
2010	5	10 ～ 11	放水路トンネル工事現場の作業用トンネルの工事において、坑口より約300 m地点の切羽左肩側（高さ約4 m）が肌落ちし、崩れた岩石が切羽内で作業していた被災者に当たったもの。被災者は切羽内でロックボルトの位置をマーキングする作業を行おうとしていたと推定される。なお地質は亀裂が細かい泥岩であった。	30102	100 ～ 299
2010	7	9 ～ 10	林道工事における床掘りの測量（丁張り）作業中、背後の山側の地山が崩壊し、岩盤の一部が被災者に激突し、病院に搬送中、死亡したもの。	30106	10～ 29
2010	7	9 ～ 10	復旧治山工事現場において、堰堤補修工事を行っていたところ、突然地山の法面が広範囲に崩壊し、その下で作業中の労働者が避難できずドラグショベルもろとも生き埋めとなり2名が死亡した。法面は風化等により不安定な状態となっており、ブレーカーの振動等の外的要因が加わって崩壊したとみられる。	30107	10～ 29
2010	7	9 ～ 10	復旧治山工事現場において、堰堤補修工事を行っていたところ、突然地山の法面が広範囲に崩壊し、その下で作業中の労働者が避難できずドラグショベルもろとも生き埋めとなり2名が死亡した。法面は風化等により不安定な状態となっており、ブレーカーの振動等の外的要因が加わって崩壊したとみら	30107	10～ 29

			れる。		
2010	10	14 ～ 15	下水道管の敷設工事現場において、塩ビ管（長さ4m、径150mm）を設置するために幅1.17m、長さ10.40m、深さ約3mに掘削した地山において、地山の一部が崩壊し中に入っていた作業員1名が生き埋めになり死亡したもの。災害発生時、土留め支保工（縦ばりプレート及び軽量鋼矢板）は準備されていたものの、設置する前だった。また、この時に救助を試みた他の作業員1名についても一時生き埋めになり負傷した。	30110	10～ 29
2010	11	15 ～ 16	建設予定地で埋蔵文化財試掘調査のため幅2m、深さ2m、長さ20mを重機で掘削した後、掘削場所でじょれん・スコップによる調査面を平準にする作業を行っていたところ、前日の大雨により表層の採石層が緩み、開削した部分の側壁の土（約5立方m）が崩壊し被災したもの。崩壊防止がなされていなかった。	30109	1～9
2010	11	12 ～ 13	下水管の布設作業中に発生した災害。被災者は、幅1m、長さ4m、深さ2.5mに亘って掘削された箇所に立ち入ったところ、土砂が崩壊し被災したものである。土留めは行われていなかった。被災者は床ならしのため、掘削箇所に立ち入ったものと思われる。	30110	1～9
2010	11	10 ～ 11	車庫建設の土台となる土地を改良するため、ドラグショベルで掘った3.1m×2.6m×2.3m（縦横深さ）の中に2名で入り、穴の角を出すためツルハシで手掘りしている時、約2m離れた場所の土砂が崩壊し、足をすくわれ転倒し、肩・胸・腰を骨折した。崩壊した土砂は約0.5立方m程度であり、土砂は両足の膝下部分のみにかかっている感じであった。	30199	1～9
2011	4	17 ～ 18	市内での出張作業を終えて、市外の会社事務所に戻るため、県道を車で走行中、午後5時16分に起きた「東北地方太平洋沖地震」の余震（最大震度6弱）によって発生した土砂崩壊に巻き込まれたもの。	30309	1～9
2011	12	9 ～	森林管理道開設工事現場において、山側斜面補強のためのコンクリート擁壁を設置するため、元請現場代理人及び下請作業員3名の計4名により、前日までに掘削した掘削溝でコンクリート壁の設置作業を行っていたところ、山側法面が高さ約12メートル、幅約13メートルにわたって崩壊し、掘削溝	30106	10～ 29

		10	内（深さ約２メートル）で作業をしていた３名が土砂に生き埋めになったものの。		
2011	5	9 ～ 10	雨水貯留ますの深さを変更するため、雨水貯留ますの横を、幅約２．６m、深さ約２．５mでバックホーを使用し掘削作業中、土砂が崩壊し、掘削溝の中にいた被災者に土砂が直撃したものの。	30199	30～ 49
2011	5	13 ～ 14	林道脇の法面（高さ２０～３０m）にコンクリート等を吹き付けて補強する工事現場において、事前に、法面の成形（浮き石等の除去）作業を行っていたところ、上部の岩盤が突然崩壊し、崩壊した岩盤（幅約２m程度）が被災者に衝突し、その衝撃により、上部で固定していた命綱のロープも切断され、岩盤とともに地面に墜落した。被災者は、墜落した地面で落石の下敷きとなり死亡したものの。	30199	10～ 29
2011	9	13 ～ 14	被災者は外注の仕事を依頼するために、製品（タイル３６００枚）を会社が所有する車に積み込み、町内の工場から別の町内にある加工場に向かう途中に消息を絶った。翌２１日午後３時４５分頃、町内にて発生した土砂崩壊現場において、土砂崩壊に巻き込まれた状態で埋まり潰された車が発見され、その中で死亡しているところを発見されたものの。	10903	30～ 49
2011	10	10 ～ 11	既存の建物（地階部分）の解体工事にて、クローラドリルで床面のコンクリートの穿孔作業を行っていた被災者の後方の土砂が崩れ、生き埋めになったものの。	30199	1～9
2011	1	13 ～ 14	住宅の造成地において、被災者を含む作業員５名は、敷地内に公道に通じる道路を造るため、隣人宅の擁壁に接する埋土を掘削する作業を行っていた。ドラグショベルで１m程掘削して、土の深さを測量していたところ、擁壁が割れて、その一部（上部厚さ１５cm、最大高さ１m６０cm、長さ４m２５cm）が倒壊して、掘削箇所に入り込んでいた被災者が、擁壁の角と土塊との間に左胸などを挟まれたものの。	30202	1～9
2011	9	17	事前に積まれていた盛土上において、４台のドラグショベルを使用して、土砂の搬入作業を行っていた際、被災者が運転していたドラグショベル周辺の	170209	10～ 29

		18	盛土が崩壊し、ドラグショベルごと盛土より転落し、土砂に埋まったもの。		
2011	9	5 ～ 6	台風の豪雨で近くの山で土砂崩れが発生し、建設業寄宿舍内にいた被災者が土砂崩れに巻き込まれた。土砂に埋もれていたところを救助されたが、死亡したもの。	80209	
2011	7	14 ～ 15	被災者は、排水管を敷設してマンホールに繋ぐ箇所をドラグショベルで深さ約1.6m、幅1.1m掘削した。被災者は、排水管敷設のため、この掘削した溝に入り底の整地作業している時、南側の土壁（約2立法メートル）が崩れ、ヘルメットの頂点が見える状態で頭まで土砂に埋まった。	30201	30～ 49
2011	7	16 ～ 17	法面の落石防護工事でモルタル吹付の前に、法面の草木浮石等を取り除く作業を行っていた。小規模な崩落があったため、崩壊箇所にネットを張った後法面の清掃作業を再開したところ、作業場所の上部（高さ約27m地点）から広範囲にわたり崩落が発生し、被災者が崩落した土石に巻き込まれたもの。被災者は約2時間半後に発見されたが既に死亡していた。	30199	1～9
2011	2	15 ～ 16	本工事において布設した污水管が設計どおりの位置となっていなかったことから、再度ドラグ・ショベルと人力にて掘り起こし、污水管の位置の調整作業を行っていた。污水管の位置の調整が終了したため、深さ1.7mまで埋め戻し、土止め支保工を撤去した。その後、被災者2名が土止め支保工のない掘削溝の中に立ち入ったところ、地山が長さ約3.5m、幅約60cm、高さ約1.7mにわたり崩壊し被災した。	30199	10～ 29
2011	12	10 ～ 11	水道管敷設作業において、地山を深さ約2メートル、幅約1メートル、長さ約8メートルにわたり、開削方法で掘削中、側面が崩壊して被災者が土砂に埋まったもの。	30201	1～9
2012	3	13 ～ 14	下水管及び污水管の布設のため、幅が約2m、深さ約3mの溝状に重機を用いて掘削し、その後、被災者が床づけ作業のために掘削底に立ち入ったところ、側面が崩落し、胸部圧迫により死亡した。	30110	10～ 29
2012	2	10 ～ 11	下水道管取替工事において、バックホーにて市道を開削工事中、約3m掘り下げた際、被災者は溝内に降り、下水管の状態確認作業を行っていたところ、掘削側面が崩落し、脳挫傷にて死亡した。	30110	1～9

2012	6	11 ～ 12	重機（ドラグ・ショベル）を積載したトレーラーで、山中の公道を走行中、迂回路から市道へ戻る合流地点で切り返しをしている際、道路脇斜面から落石があり、運転席部分の屋根を直撃し被災した。直撃した落石は、約60cm×約40cm×約30cmである。被災者は、レスキュー隊により救出されたが、救急搬送前に死亡が確認された。	30106	30～ 49
2012	3	13 ～ 14	被災者は防火水槽を道路下に設置する工事において、深さ約4mに重機で掘った穴に土止めを設置しようとしていた。穴の底に降りて作業を開始したところ、側面の土砂が崩れ被災した。	30199	10～ 29
2012	5	13 ～ 14	被災者らは、午前中にドラグ・ショベルでの掘削を終え、午後から溝の中に入り、掘削した溝の底をならす作業を終了し、樹脂製排水管を配置するため溝より出ようとしていたところ、溝の中央あたりで土砂が崩れ生き埋めとなった。なお、掘削の全長は約16m、幅約0.55m、深さは深いところで約2.6m、浅いところでは0.45mであった。	140301	100 ～ 299
2012	6	13 ～ 14	被災者は下水管を埋設する作業において、ドラグ・ショベルでアスファルト舗装の道路を深さ2.1m掘削した床の長さを計測するため掘削した溝に入り、計測後に溝から出ようとした際、掘削した溝の片側の法面が崩落して頭部に崩壊した土砂等が当たり、脳挫傷により死亡した。	30110	10～ 29
2012	5	9 ～ 10	住宅市街地総合整備事業におけるよう壁築造工事において、車両系建設機械で床掘した場所に被災者を入れ、スコップを使用して掘削面を調整していたところ、L字型に隣接する法面（高さ約5m）が崩壊し、被災者が生き埋めとなった。直ちに救助し、救急搬送したが、搬送先の病院で頭蓋骨骨折、脳挫傷のため死亡した。	30110	10～ 29
2012	3	11 ～ 12	污水管の布設のため、ドラグ・ショベルにて深さ2m以上の明かり掘削を行った後、被災者が掘削溝内に入り排水ポンプ設置のため掘削溝底部を10cm程スコップで掘っていたところ、側壁が崩壊し被災した。	30110	10～ 29
2012	7	5 ～	豪雨の中、事業場の施設管理業務を担当している被災者は、上司からの緊急出勤命令により、自宅から事業場へ乗用車で向かう途上、国道で土石流に巻	130101	100 ～

		6	き込まれて溺死した。		299
2012	1	10 ～ 11	マンション新築工事現場において、基礎工事における単管と木製足場板で構成された防護壁を設置する作業を行う際、掘削溝内で作業員2名が防護壁に足場板を重ねる作業を行っていたところ、隣接駐車場敷地内にあるフェンスの基礎コンクリート部及び基礎コンクリート下部の土砂が長さ約7.4m、幅約80cm、高さ1.66mにわたり崩壊し、作業員2名が土砂等に生き埋めになり1名が死亡、1名が負傷した。	30201	10～ 29
2013	5	10 ～ 11	下水道の配管敷設工事において、被災者は深さ1.5m～1.9mの溝の中で、既設の水道管の位置の確認のため剣先スコップを使用して掘削作業中に、掘削法面が崩壊し、土砂に押され、姿勢を崩した時に被災者が持っていたスコップの柄が被災者の腹部にあたった。被災者は、立った姿勢で膝の高さまで埋まり、救助され病院へ搬送されたが、内臓の出血により死亡した。	30110	1～9
2013	11	15 ～ 16	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	100 ～ 299
2013	11	15 ～ 16	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	100 ～ 299
2013	11	15 ～ 16	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	100 ～ 299
2013	11	15 ～ 16	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	100 ～ 299

2013	11	15 ～ 16	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	100 ～ 299
2013	9	13 ～ 14	道路の拡幅工事現場において、元請の作業員3名と1次下請の作業員4名、ほか作業員1名の合計8名により、既設のヒューム管補強のための型枠設置作業を行っていたところ、ヒューム管の南側の高さ約3メートルの地山（掘削により生じた掘削側面）が崩れ、被災者2名（元請1名、1次下請1名）が土砂に埋まり死亡した。	30106	100 ～ 299
2013	9	13 ～ 14	道路の拡幅工事現場において、元請の作業員3名と1次下請の作業員4名、ほか作業員1名の合計8名により、既設のヒューム管補強のための型枠設置作業を行っていたところ、ヒューム管の南側の高さ約3メートルの地山（掘削により生じた掘削側面）が崩れ、被災者2名（元請1名、1次下請1名）が土砂に埋まり死亡した。	30106	10～ 29
2013	6	10 ～ 11	排水管設置のため地下排水溝の掘削砕石敷設作業中、掘削完了箇所に基礎砕石を投入するため、作業箇所にいた作業員が退避しようとしたところ、近接する切土法面が崩落し、被災者が土砂に巻き込まれた。	30106	10～ 29
2013	1	10 ～ 11	マンション建設現場において、電気工事の下請事業者（3次下請代表）が、地下に電線を埋設するため、地面からの深さ1.5m幅1mの溝を重機にて掘削し、その溝内に自社の労働者を入らせ作業をさせていたところ、溝の側面が崩壊し、当該労働者が生き埋めになった。	30301	1～9
2013	4	11 ～ 12	建物1階の床下部分に水がたまり、エレベーターピットに漏れ出ていたため、隣接するピットであったであろう箇所に穴をあけたところ水が噴出した。そこで、排水するポンプを設置し排水したが、ピットであったであろう箇所には硬い岩のような土砂が堆積しており、漏れ出ている箇所の確認ができなかった。おのため、電動ピックではつりながら掘り進めていたところ、土砂が崩落し下敷きとなった。	30309	10～ 29
		16	砂防堰堤工事の現場において、被災者は構築した型枠の中で確認の作業をし		

2013	11	～ 17	ていたところ、脇の地山（高さ約10メートルの箇所）が幅約5メートルにわたって崩れ、崩落した土砂と岩石の下敷きとなった。	30108	10～ 29
2013	1	～ 17	用水管付替工事現場において、縦3.4m、横2m、深さ約3mの大きさに掘削された穴の中で、1次下請業者の労働者が配管の付替え工事を行っていたところ、縦方向面の壁が崩壊し被災者に激突した。	30110	1～9
2013	2	22 ～ 23	トンネル上り線の出口付近にて、3名で支保工の設置のための位置決め作業を行っていたところ、坑口周囲の上部及横部の地山が滑るように崩落し、付近で作業していた3名を巻き込んだ。尚、坑口の周囲の地山は、土止め措置としてコンクリートが吹き付けられていた。	30102	10～ 29
2013	4	12 ～ 13	建設中の自動車専用道のトンネル工事現場で、切羽周辺が崩落し、作業をしていた労働者1名が土砂に埋まった。	30102	30～ 49
2013	8	13 ～ 14	法面にラスを張る作業を行うにあたり、被災者が垂直親綱を設置し、法面に登っていたところ、法面上部の岩石が崩落したことにより、崩落に巻き込まれ、被災者は法面から落下し、最大直径約4メートルの岩石の下敷きになった。	30199	1～9
2013	5	～ 15	民家の造成工事において、民家の裏山部分を地面から高さ約4m掘削（勾配約80度）後、被災者は、この掘削した地山と民家の間に水路を設けるため型枠を組み丁張作業中、この掘削した地山が崩壊した。崩壊した土砂が被災者の下半身まで埋まり、転倒した際、ドラグショベルの排土板で頭部を強打し死亡した。	30109	1～9
2013	8	17 ～ 18	宅地造成工事現場において、1名がスコップ、もう1名が手持ち式はつり機を持って鋼矢板のそばで手掘り作業を行っていたところ、鋼矢板が傾き出して土砂が崩壊し、2名が生き埋めになった。手持ち式はつり機で作業を行っていた被災者は、その後救出されたが、死亡が確認された。	30199	1～9
2013	10	～	農業用水路の築造工事において、被災者は配管を埋設するために掘削した溝（深さ2m90cm）の内部で配管の接続作業をしていたところ、掘削溝の	30110	1～9

		15	壁面の縁石が土砂と共に崩落、生き埋めとなった。		
2013	4	12 ～ 13	産業残土等の土捨て場において、労働者ら3名が、沈砂池へ水を流す排水管（1本：長さ5m×径0.8mの塩化ビニール管）を埋設し連結する作業を行っていたところ、隣接する盛土が崩壊し、2名（労働者1名、会社役員1名）が生き埋めとなり死亡した。尚、現場は、捨土が盛られた個所を管埋設のため、約1m程度の深さにドラグショベルで床掘りした場所で、周囲には捨土と掘削土が山状に盛ってあった。	30199	1～9
2014	12	12 ～ 13	溝掘削内にて、被災者が立ち入ったところ、溝側部の地山が崩壊し、上部にあったアスファルト塊及び土砂が被災者の腹部に落下した。	30110	1～9
2014	11	11 ～ 12	水漏れ箇所の点検のための掘削作業中、被災者が穴の中に入り確認作業を行っていたところ、土砂が崩れた。	30199	1～9
2014	11	0 ～ 1	採石場内の作業道拡幅作業中、法面に発破を装填するための穴をクローラドリルで水平方向に掘削していたところ、法面の岩盤が崩壊し、クローラドリルが崩壊した岩盤及びその上方の土砂の下敷きとなった。	20201	1～9
2014	10	9 ～ 10	排水管布設用の溝の掘削作業中、床付け面の深さを測定するため被災者が箱尺を持ち、溝内に立ち入ったところ、片側の地山が崩壊した。尚、土留め支保工用の資材が現場脇に用意されていたが、使用していなかった。	30203	1～9
2014	10	10 ～ 11	石落とし作業を行った際、林道にて作業に使用したロープ等の片付け作業を行っていたところ、高さ10メートル、幅8メートルの範囲で地山表層が崩落し、直径約1メートルの石が被災者の半身に落下し、はさまれ、脳挫傷及び心臓破裂により死亡した。	30199	1～9
2014	10	10 ～ 11	被災者は、本殿建て替え中、仮の本殿として使用していた仮本堂の廊下に入ったところ、仮本堂の裏の斜面が崩壊し、崩れた土砂により仮本堂の建屋が押しつぶされ、建物等の下敷きになり、死亡した。	170209	10～ 29
		11	土場にて、土を油圧ショベルで掘削し、ダンプに積み込む作業中、背部の地		10～

2014	10	～ 12	山が崩壊し、油圧ショベルごと埋まり、窒息死した。	30199	29
2014	9	14 ～ 15	林道改良工事にて、沢の水を通すために埋まっていたヒューム管交換のため、掘削し、ヒューム管設置後に吐き出し口となる付近に設置する布団籠に石を詰める作業を複数名で行っていたところ、被災者が掛矢を持ち、掘削箇所に進入したところ、法面上部の土砂が崩壊し、埋まった。	30106	10～ 29
2014	7	9 ～ 10	地中下水管設置の際、溝を測定しようと、被災者は溝の内部に入り、測定作業を行っていたところ、掘削溝の側壁の片側が崩壊し、土砂に埋もれた。	30110	1～9
2014	7	15 ～ 16	法面整形する作業中、道路上にて、登坂の準備中、法面上方で落石崩壊が発生し、被災者に当たった。	30106	10～ 29
2014	7	16 ～ 17	掘削用機械で河床を所定の深さに掘削する作業中、河床まで深さ約4メートルある岸壁（法面）が幅約11メートルにわたり崩壊。河床にて、掘削用機械への合図を送っていた被災者が、倒れた鋼鈑の下敷きとなった。	30107	10～ 29
2014	4	11 ～ 12	掘削床にて、雨水管を掘削していたところ、掘削面の一部が崩壊し、崩壊した土砂が被災者の胸部付近に激突。腰部付近まで土砂に埋まり、肺挫傷により死亡した。	30201	10～ 29
2014	3	14 ～ 15	基礎杭周囲を掘削し、基礎の均しコンクリートを電動ハンマーで小割りしようとしていたところ、均しコンクリートを支えていた土砂が、電動ハンマーの振動で崩壊し、均しコンクリート及びその上に堆積していた土砂が被災者に崩れ落ち、窒息死した。	30199	1～9
2014	2	13 ～ 14	下水管敷設工事にて、污水管設置位置の掘削作業を行っていた被災者は、掘削溝内で支障となる配管の有無を確認作業中、掘削溝東側の掘削壁面が崩落し、支えを失ったアスファルト塊が落下し、被災者の頭部に激突し、死亡した。	30110	10～ 29
		14	照明設備工事にて、被災者は深さ2.3メートル掘削坑内で照明柱基礎コン		

2014	2	～ 15	クリートの型枠パイプ撤去作業中、付近で法面が土砂崩壊したため、別の作業員がドラグ・ショベルにて土砂撤去作業を行っていたところ、同箇所の法面土砂が更に崩壊し、被災者が生き埋めになった。	30203	1～9
2014	2	14 ～ 15	階段採掘法による採石現場で、3段目の階段で発破した岩石をドラグ・ショベル（機体重量25t）により一番下まで落とす作業中、3段目上部の岩石が崩落し、その崩落により被災者はドラグ・ショベルと共に43.7mの一番下まで転落。運転席から投げ出され、全身挫滅で死亡した。	20201	10～ 29
2014	1	14 ～ 15	農業用配管の移設作業のため、縦5メートル、横1.3メートル、深さ1.9メートルにわたり掘削した後、当該掘削箇所内で配管の取付作業を行っていたところ、側壁が土塊として崩れ落ち、被災者を直撃した。	30106	10～ 29
2015	4	19 ～ 20	トンネル切羽において、火薬の装填作業を行っていたところ、切羽天端部の肌落ちがあり、装填した火薬（雷管）が2つ落下した。すぐに同火薬を回収するため職長及び被災者が切羽に近づいたところ、岩盤が大規模に崩落し、被災者は落下してきた約3トンの岩の下敷きとなった。岩を除去し、救急車にて搬送されたが、搬送先にて死亡が確認された。	30102	10～ 29
2015	7	10 ～ 11	下水管敷設のため、深さ1.8m、幅1.2mの溝をドラグショベルにより掘削中、被災者が溝の中に入りまもなくして被災者の背中側が深さ1.4m、幅0.5m、長さ2mに亘って崩れ、腰ぐらいまで土砂に埋まった。	30199	30～ 49
2015	2	13 ～ 14	工場本体の新築工事の外構工事として、敷地内に貯水槽（大きさ6.6m×3.6m深さ3.3m）を設置するためドラグ・ショベルで、大きさ11m×8m深さ約3.6mの総堀りをしていた。その際、突然ピット側面の土砂が崩壊したため、ピット底部に入り、ならし作業をしていた被災者が生き埋めとなり、すぐに救出し病院に搬送されたが死亡が確認されたもの。	30199	1～9
2015	10	9 ～ 10	下水配管の敷設現場において1人が溝内で作業中、側面の土砂が崩壊して埋まったため、地上にいた4名が溝内に入って救助していたところ、2度目の崩壊が発生。救助に入った4名のうち2名は難を逃れたが、1名は土砂とともに崩壊したアスファルト片が腰に当たって負傷し、1名は逃げ遅れて土砂に巻き込まれて死亡した。また、当初埋まった労働者も死亡したもの（死亡	30110	1～9

			2名、負傷2名）。		
2015	3	18 ～ 19	既存建物のコンクリート壁を解体後に、飛び出している鉄筋をガス溶断により切断し撤去する作業中、頭上で土砂が崩壊し、被災者に直撃し生き埋めになった。崩壊した土砂は、解体前のコンクリート壁と山留杭との間（厚さ約0.8m）に残存していたものであり、その一部分（高さ約4m、幅約3m、奥行約0.8mの範囲）が崩壊、落下したものであった。	30201	1～9
2015	1	11 ～ 12	民家の下水管布設工事現場において、掘削溝（幅60センチメートル、長さ6.8メートル、深さ1.5メートル）の側壁が崩壊し、溝の中にいた労働者2名が土砂に巻き込まれたもの。	30110	1～9
2015	3	15 ～ 16	遊歩道の手すりの改修工事において、ドラグショベルで手すりの支柱の基礎（コンクリート2次製品）を地中に埋め、余掘りの埋戻し作業を行っていたところ、その周辺の岩石等が崩壊し、ドラグショベルの周辺にいた被災者に直撃した。被災者は、崩壊した岩石とともに約5m下の谷側に転落した。	30106	1～9
2015	2	11 ～ 12	橋梁の下部工事の試掘作業において、深さ約3メートルの掘削内に立ち入ったところ、溝掘削西側法面が崩壊し被災者の全身が土砂に埋まった。	30105	50～ 99
2015	10	9 ～ 10	下水配管の敷設現場において1人が溝内で作業中、側面の土砂が崩壊して埋まったため、地上にいた4名が溝内に入って救助していたところ、2度目の崩壊が発生。救助に入った4名のうち2名は難を逃れたが、1名は土砂とともに崩壊したアスファルト片が腰に当たって負傷し、1名は逃げ遅れて土砂に巻き込まれて死亡した。また、当初埋まった労働者も死亡したもの（死亡2名、負傷2名）。	30110	1～9
2015	4	17 ～ 18	宅地造成工事現場において、男性作業員が高さ約6メートルの法面における養生シートの手直しを行っていたところ、法面が崩壊し被災したもの。	30202	10～ 29
2015	4	10 ～	被災者は、建築中の建屋北側の駐車場予定地において、汚水配管埋設作業のため、掘削された幅約70cm、深さ約1.5mの箇所に入り、同配管の取付作業を行っていたところ、掘削した箇所の側面が崩落し生き埋めとなり被	30201	1～9

		11	災したもの。		
2016	12	3 ～ 4	ずい道新設工事において、坑口から232mの切羽部で鋼製アーチ支保工設置にあたり、浮石や支保工設置位置等の確認（当たり取り）のため切羽部に近づいたところ、切羽左上半の側面部が肌落ちし、その下敷きになった。	30102	50～ 99
2016	10	9 ～ 10	林道改良工事において路肩の下で型枠の脱着作業を行っていたところ、路肩が崩壊し、土砂に埋もれて死亡した。	30106	1～9
2016	9	12 ～ 13	アパート建築工事において、敷地に隣接する車道との間の斜面（高さ約3.5m）にブロック積擁壁を設置するため、斜面等の土砂をドラグショベルで掘削していたところ、掘削法面の土砂が崩落（推定4立方m）し、法面直下で補助作業に従事していた被災者が生き埋めとなった。被災者は心肺停止状態で病院へ搬送されたが、死亡した。	30202	1～9
2016	9	14 ～ 15	新設水道管を布設する工事において、深さ約1.45m、幅約0.9mにて掘削した箇所に入り、布設した水道管を微調整するため、管下をスコップを使って掘っていたところ、側面の土壁が幅約0.5m、長さ約1mに渡り崩れ、被災者の腰から下が埋まった。	30110	10～ 29
2016	9	19 ～ 20	前月の台風による大雨の影響で小規模な土砂崩れが発生した国道付近において、大雨が降り続く中、被災者が歩道に停車させた車両内から斜面の状況を監視していたところ、土砂崩れが発生し、車両ごと土砂に押し流されて海に転落した。駆け付けた救急隊員に救助されたものの、搬送先の診療所で死亡が確認された。	30199	10～ 29
2016	8	9 ～ 10	マンションの土間下排水管取替えのため、マンション土間下に掘った坑に被災者1人が入り作業を行っていたところ、天井（マンション土間部分）から岩のような塊（1.6m×0.75m×0.25m）が落下し、その下敷きになって死亡した。	30203	1～9
2016	3	15 ～	溪流の右岸の護岸工事を行っていた。労働者4名で護岸用の金属カゴ（長さ202cm、幅77cm、高さ51cm）に石材を詰める作業を行っていた	30107	1～9

		16	ところ、幅16.3m、高さ24mにわたって法面が崩壊し、労働者1名が生き埋めになった。		
2016	2	11～12	ダムの取付け道路工事現場において、法面（高さ9.5m）掘削用に設けられた防護柵（高さ3m）の解体作業中、法面が、高さ15m、幅20m、奥行き10mにわたって崩壊したため、作業員3名のうち、1名が生き埋めとなり被災した。	30106	10～29
2016	2	16～17	林道の路肩の崩壊箇所を補修するに際し、土のうを設置後、ドラグ・ショベルを用い道路上に残っていた土砂を取り除いていたところ補修箇所を含む路肩が崩壊し、ドラグ・ショベルが約13.5メートル下の河原に転落、被災者は車外に投げ出され頭部を打撲し死亡した。	30108	1～9
2016	1	15～16	被災者は、切羽付近で、ドリルジャンボのバケットに乗り、導爆線を束ねて同僚に手渡した後、切羽面に沿って移動中、切羽面から岩塊（約500kg）が肌落ちし、バケット内の被災者の背中に岩塊が当たって死亡した。	30102	10～29
2016	1	13～14	被災者は斜面下方において斜面に堆積させていた土砂をドラグショベルを使用してダンプに積み込む作業を行っていたが、その斜面の土砂が突然崩れて、被災者の乗っていたドラグショベルと土砂を積み込んでいたダンプが崩れた土砂により横倒しとなり、ドラグショベルは土砂に埋まった。ダンプの運転手は自力で脱出して負傷はなかったが、ドラグショベルの運転手は約2時間半後に救出されたものの死亡していた。	30106	10～29
2017	12	14～15	急傾斜地（高さ約10m。当該場所には約30年前にモルタルが吹き付けられていた。）の崩壊対策工事現場において、被災者は、ピックを用いて高さ約1.5mの当該モルタルのはぎ取り作業に従事していたところ、そばのオーバーハングのため残しておいたモルタル部分（高さ約3m、幅約2m）が崩壊し、被災した。	30199	1～9
2017	11	12～	新規開設した道路の路面を計画の高さまで掘り下げるため、被災者がブレーカを運転して路面の岩を砕き、その後方で現場代理人がドラグショベルを運転して砕いた岩を後方へ移動させる作業を行っていたところ、ブレーカの運転席側の法面（高さ約20m、全長約20m、勾配約5分）が上方から崩	30106	10～29

		13	落、被災者はブレーカに搭乗したまま土砂の生き埋めとなり、約１０時間後に救出されたが、死亡した。		
2017	11	4 ～ 5	道路に下水道のマンホール及び管を設置する工事現場で、作業員２名が、幅１．１メートル、延長２．２メートル、深さ３．６メートルの掘削箇所の中で管の接続作業をしていたところ、掘削側面の土砂が崩壊し、土砂の下敷きとなり、作業員１名が死亡した。	30110	1～9
2017	10	16 ～ 17	被災者は、下水道工事現場において、掘削した溝（深さ約２．２メートル）の中で、敷設された管の位置を確認する作業を行っていたところ、土壁が崩壊し、生き埋めとなり死亡した。	30106	10～ 29
2017	9	12 ～ 13	下水道管を付設する工事において、掘削溝の幅９５センチメートル、長さ約２メートル、深さ約２．３メートルの土止め支保工が設置されていない箇所で作業者が下水道管の下側に砂利を敷き詰める作業に従事したところ、地山が崩壊し、死亡した。	30110	1～9
2017	7	18 ～ 19	宅地造成工事現場において、マンホール・管の設置作業中、型枠にコンクリートを流し入れたところ、型枠が開き、壊れる危険が生じた。そのため、被災者と現場の副責任者の２名で型枠の補強を行うべく、掘削した箇所に入したところ、側面の土砂が崩壊し被災者に降り掛かり生き埋め状態となり、翌日に死亡した。	30109	10～ 29
2017	7	16 ～ 17	災害発生場所において、ベンチカットで採石していた岩の法面下部で、被災者はクローラードリルを運転し、発破のための穿孔作業を行っていたところ、作業箇所上部の岩が崩壊し、被災者がクローラードリルごと埋まった。山から下りてこないことを不審に思った同僚が現場に見に行き、１６時５０分頃、災害を発見した。	20201	1～9
2017	1	20 ～ 21	トンネル工事現場の終点側の切羽において、発破作業のためドリルジャンボにより穿孔作業後、被災者は火薬の装薬作業のため、ドリルジャンボのマンゲージに上がり装薬箇所へ移動中、鏡面全体の約３／４が崩落（高さ７．９m、奥行き約０．５m、玄武岩の推定崩落量３２立方メートル）し、マン	30102	50～ 99

			ゲージごと岩塊の下敷きとなった。なお、鏡吹付け、切羽監視責任者による常時監視は行われていた。		
2017	1	8 ～ 9	宅地造成工事現場の下水管敷設工事において、被災者2名の共同作業で、溝掘削（幅70cm、深さ213cm）内の西側側壁に下水枝管用の横穴をブレーカー等で掘っていたところ、東側側壁（勾配80～88度）が崩壊し、被災者2名が土砂に埋まった。	30109	10～ 29
2017	1	8 ～ 9	宅地造成工事現場の下水管敷設工事において、被災者2名の共同作業で、溝掘削（幅70cm、深さ213cm）内の西側側壁に下水枝管用の横穴をブレーカー等で掘っていたところ、東側側壁（勾配80～88度）が崩壊し、被災者2名が土砂に埋まった。	30109	10～ 29
2018	10	12 ～ 13	市道脇の斜面上にて、台風による倒木の撤去作業のため、被災者はクレーン車で支えられた立木をチェーンソーで伐倒する作業を行っていたが、立木の伐倒後、伐倒木から離れた場所で待機していたところ、待機場所上方の幅2.5メートル、高さ5メートルの斜面の土砂が崩壊し、生き埋めになったもの。被災者は救出されたが、現場で死亡が確認された。	30199	1～9
2018	9	16 ～ 17	深さ2.0メートルの掘削溝にハンドホール（コンクリート構造物）を敷設している際、掘削溝底面で作業を行っていた被災者の背後の法面が崩壊し、被災者は両膝付近まで土砂に埋没するとともに、崩壊した土砂の土圧によって前傾姿勢となり、腹部をハンドホールに強打したものの。	30301	1～9
2018	7	8 ～ 9	河川の護岸工事において、盛土の上に大型土のう（約1.4トン）を置き、仮締切りした箇所に、2台目の水中ポンプを設置していたところ、大型土のうの下盛土が崩れ、土のうの上で作業を行っていた被災者が土のうと一緒に落ち、土のうとの間に挟まれたもの。	30107	30～ 49
2018	7	4 ～ 5	工場内で夜勤の作業員約60名が自動車部品製造中、工場西側の裏山が崩れて工場内に土砂や倒木が流れ込み、この裏山に近い場所でプレス作業に従事していた6名がプレス機械と一緒に押し流され、2名が死亡、4名が骨折等の負傷。	11502	300 ～ 499
			工場内で夜勤の作業員約60名が自動車部品製造中、工場西側の裏山が崩れ		

2018	7	4 ～ 5	て工場内に土砂や倒木が流れ込み、この裏山に近い場所でプレス作業に従事していた6名がプレス機械と一緒に押し流され、2名が死亡、4名が骨折等の負傷。	11502	300 ～ 499
2018	7	20 ～ 21	業務が終了し、取締役事業長の指示により、被災者は自動車で同僚を自宅に送る際、豪雨災害による土砂崩れに同僚とも巻き込まれ、被災し死亡したものの。	11502	10～ 29
2018	6	8 ～ 9	汚水配管設置のための掘削（約H：1.8m×L：5m×W：1.4m）作業終了後、土止め支保工の矢板設置のため掘削箇所に入り、スコップで整地していたところ、掘削法面が崩壊して被災者の腰まで土砂で埋もれ、病院で死亡したもの。	30110	10～ 29
2018	5	10 ～ 11	新設鉄塔の基礎工事における災害である。地山掘削、基礎の打設・養生が終了したため、周囲のライナープレートを撤去する作業をしていた。プレート同士をつなぐ48本のボルトのうち2本がライナーに押されて外れず、プレートを吊る4本のワイヤーの張力の偏りを修正するため、バケットを斜め上方に微動させた。直後に土圧でライナープレートが動き、土砂がライナープレートの下部から流入して肩まで土砂に埋まった。	30301	10～ 29
2018	3	16 ～ 17	市発注の下水道工事（L＝600m）において、民家へ引き込むための取出し管（事前に本管に取付けていた）周辺の掘削（最深部でH＝1.7m）を行っていたところ、手掘りをするため掘削溝内に入った際、突然、碎石・土砂（H＝0.8m×W0.5m）が崩壊し、被災者の首付近に直撃した。崩壊した碎石・土砂は、上部40cmが碎石であった。	30110	1～9
2018	1	12 ～ 13	被災者は、旧水路と新設水路の接続用の鉄筋を差し込む箇所に目印を付すため、全長約35m、深さ約2.5mで掘削完了後一定期間が経過した掘削部に立ち入っていたところ、掘削法面の一部が崩壊し、生き埋めになった。その後、救急隊により病院に搬送されたが、死亡した。掘削箇所の土質は、その他の地山で、掘削面のこう配は、約70度であった。	30199	1～9
		12	下水道工事現場の掘削溝内（幅0.95m、深さ1.6m）で土止め支保工		

2019	12	～ 14	の軽量鋼矢板の設置準備のため、被災者と同僚1人が溝内に降りて準備しているところに、側壁が崩落（高さ1 m、幅2. 8 m、奥行き0. 7 3 m程度）し、被災者の身体全体が崩落土砂に埋もれたもの。	30110	1～9
2019	11	12 ～ 14	共同住宅建設現場における建物基礎部の地山掘削作業に関連し、幅約1 5 0 c m、深さ約1 8 0 c mである掘削底においてケレン棒を使用して土止め壁に付着した土砂の除去作業を行っていたところ、背後の地山が長さ約2 m 3 0 c mにわたり崩壊し、腰部まで埋まったもの。	30201	1～9
2019	11	～ 16	被災者は、事務所の観測所の定期の保守点検を行うため、同僚2名と川沿を徒歩で1列縦隊となって移動していた。そして、観測所のある左岸側の沢まで到達し、その沢を先に同僚2名が登りきり、最後に被災者がそこを登っていたところ、沢が崩壊し、落下してきた岩（大きさ約1 m～2 mで2個と推定）に体を挟まれたもの。	80209	30～ 49
2019	10	12 ～ 14	山砂採取場にて、斜面高さ6 0メートル上部で掘削して下方に落とすことにより堆積した山砂をドラグ・ショベルでダンプトラックに積み込んでいたところ、斜面上に堆積していた山砂が崩壊してドラグ・ショベルとダンプトラックが埋まり、ドラグ・ショベルの運転手が死亡した。	20202	10～ 29
2019	10	14 ～ 16	管水路工事現場において掘削構内でのマンホール据え付け作業中に法面の一部が肌落ちし、労働者の下半身が埋まって被災したもの。被災労働者は被災当初左脛部の複雑骨折、骨盤の骨折の症状であったが集中治療室に入っており、容態が急変した結果死亡したもの。	30199	10～ 29
2019	10	12 ～ 14	井戸掘削のため、直径1 5 c m深さ1 5 0 mのボーリング予定のうち7 5 mまで掘削したところで、地中に入れたボーリングロッドを一旦引き抜いてレールに搬出し休憩に入ろうとした。その時、ボーリングマシンを設置していた箇所約5 m四方の地盤が4 m程真下に陥没したため、作業員2名と事業主が、地盤とともに落下して土砂に埋もれ、作業員1名の窒息による死亡が約1時間半後に確認された。	30199	1～9
		16	農業用水路配管（塩ビ管、L = 5 m、Φ 2 5 0 mm）を布設するため、ドラグショベルで、溝（H = 2. 7 m×L = 3 m、W = 1 m、勾配7 5～7 8		

2019	10	～ 18	度)を掘削し、労働者2名が掘削溝の底でスコップで床均し、計測を行って いたところ、当該配管を埋めるために堆積していた左岸の掘削土と掘削面の 一部が崩壊し、当該作業を行っていた労働者2名が生き埋めとなった。	30110	10～ 29
2019	10	～ 18	農業用水路配管(塩ビ管、L=5m、Φ250mm)を布設するため、ドラ グショベルで、溝(H=2.7m×L=3m、W=1m、勾配75～78 度)を掘削し、労働者2名が掘削溝の底でスコップで床均し、計測を行って いたところ、当該配管を埋めるために堆積していた左岸の掘削土と掘削面の 一部が崩壊し、当該作業を行っていた労働者2名が生き埋めとなった。	30110	10～ 29
2019	7	14 ～ 16	遺跡発掘調査のため、床掘りを3名で行っていた。被災者が手掘りスコップ で作業を行っていたところ、掘削面(深さ約2.3m)の最大奥行約0.9 m、幅約6.3mの土砂が垂直に剥離崩壊し、土砂に埋もれたもの。崩壊前 の掘削面の勾配は目測でほぼ垂直であった。	160101	1000 ～ 9999
2019	6	～ 12	擁壁築造のための基礎コンクリート打設を行うため、高さ約6mの地山の基 底部をドラグショベルですかし掘りしたところ崩壊し、全身が生き埋めと なったもの。	30109	1～9
2019	4	10 ～ 12	事業場敷地内北西部の牛舎横において、配水管敷設のため、ドラグショベル を使用して掘削作業を行っていたところ、掘削法面(高さ2.4m)の地山 が崩壊し、作業員2名が生き埋めとなったもの。そのうち1名が死亡したも の。	70101	1～9
2019	4	8 ～ 10	排水管のレベル調整のため、床掘りを2名で行っていた。被災者がクワで作 業を行っていたところ、掘削面(深さ約1.7m)の最大奥行約0.6m、 幅約4.7mの土砂が垂直に剥離崩壊し、土砂に埋もれたもの	30110	10～ 29
2019	3	2 ～ 4	道路工事のうちトンネル工事現場において、坑口から約8.5m掘削した切羽 で一次コンクリートを吹付後、上半の支保工建込準備のため、測量及び路面 の整地を行っていたところ、鏡面左肩部から1回目の崩落により被災者の下 半身が下敷きになり、さらに2回目の崩落が発生した。	30102	30～ 49
		10	被災者は、水道管布設工事のため、深さ約1.5mの掘削した溝の中で計測		

2019	3	～ 12	作業に従事していたところ、埋設されていたコンクリート擁壁（高さ約1.05m、長さ1.17m、幅約0.51m：重量830kg）が突然倒壊し、壁との間に挟まれて死亡した。	30110	1～9
2019	2	～ 12	污水管（直径20cm、長さ4m）を敷設するために、地山の掘削、污水管の据え付け、埋設等、一連の作業を3人1組で行っていた。污水管を2本目まで敷設し、地上のマンホール周辺を地固めしていたところ、被災者が掘削面（地上から1.6m）に立ち入った瞬間にボックスカルバート付近の土砂が剥離崩壊し、土砂に埋もれ死亡に至った。	30109	1～9
2019	2	～ 10	事業場敷地内の雨水等貯留用のコンクリート製沈殿槽から隣接する同社管理の農地へ農業用水を配水するにあたり私有農道に塩ビ製配管を約150m敷設する作業中、被災者は深さ1.9m、幅0.8m、長さ約12mにわたって掘削した溝内で床均し作業等を行っていたところ、掘削溝の側壁が長さ5.8m、高さ1.8mにわたって崩壊し、埋まったもの。	11709	1～9
2019	1	8 ～ 10	宅地造成現場において、ドラグショベルで掘削された幅約1.2m、深さ約1.9mの溝の中に入り、污水管の設置作業を行っていたところ法面が崩壊、逃げようとしたが腰部分まで土砂で埋まり、同僚に助け出され病院に運ばれたがその後死亡したもの。	30199	1～9
2020	11	12 ～ 14	ずい道の拡幅等工事において、掘削面で落盤、肌落ち等が発生し、坑内で車両系建設機械（ブレイカー）を運転していた被災者の背部に落石が激突、車両系建設機械の脇で死亡している被災者が発見された（目撃者なし）。なお、坑内には、ずい道支保工が設けられておらず、また、被災者が運転していた車両系建設機械のヘッドガードは坑内が狭小であったため取り外されていた。	30102	50～ 99
2020	10	～ 12	土砂の崩壊を防止するために1メートル四方のコンクリートブロックを7段積み上げていたが、土砂が崩壊したため、積み上げられていたコンクリートブロックが崩れ、付近にあったプレハブ小屋にコンクリートブロックが直撃し、プレハブ小屋の中で警備機器取付の作業を行っていた被災者が死亡したもの。	30301	10～ 29

2020	10	8 ～ 10	地上4 3階地下2階複合ビル新築工事において、掘削深さ1 0 m（縦穴状で土止め支保工済）から、さらに1. 7 5 mをドラグ・ショベル（0. 1 立方m）で掘削していた。予想外の湧水があり排水ポンプを設置する段取り中、横矢板下部より土砂が流出し、被災者がその土砂に埋まってしまったもの。その後、地上に引き上げ死亡が確認されたもの。	30201	10～ 29
2020	9	10 ～ 12	宅地造成工事において、下水管敷設のため、幅9 0 c m深さ2 m長さ1 4 mの溝を9時からドラグショベルで掘削し、1 1時ごろに掘削作業を終え、被災者は溝の深さを1人で測定していた。1 1時2 0分ごろドサッと音を立て掘削面の半分以上が突然崩壊したため、別の場所に移動していた作業員らが覗いたところヘルメット以外土砂に埋もれている被災者を発見したもの。	30109	1～9
2020	9	20 ～ 22	被災者を含む労働者2人は、台風1 0号の接近による自然災害発生に備え、会社事務所で待機していた。夜、会社事務所隣の山の斜面が崩れて、その土砂で会社事務所及び社長宅が川に流され、会社事務所で待機していた労働者2人は行方不明となった。災害発生して1 1日後、捜索隊により、災害発生現場から約3. 4 k m下流の川床の土砂の中から1人が遺体で発見された。	30106	10～ 29
2020	5	10 ～ 12	碎石破砕プラントで作業を行っていた労働者が、当該プラントから5 0 0 m程離れている採石場において、被災者が運転していた重機の動きが止まっていたこと、重機付近の採石場の法面が崩れていたことを確認したため、事務所にいた工場長へ連絡した。連絡を受けた工場長が、徒歩で採石場に向かったところ、重機のキャビンが多数の岩石に押しつぶされていた状況を確認したもの。	20201	1～9
2020	4	18 ～ 20	工場内の雑排水処理用の配管設置作業において、ドラグショベルで掘削（幅1. 4 m長さ1 9. 4 m深さ約2. 7 m）後、被災者を含む2名が掘削面の下方で配管設置作業を行っていたところ、東壁面の地山（高さ2. 5 m×長さ2. 4 5 m×幅1. 2 m）が倒壊し、被災者が土砂の下敷きとなったもの。なお、もう一人の作業者は脇腹から下が埋まったが無事であった。	30110	1～9
			下水道管を埋設する工事。9 5 0 mm（幅）×4 0 0 0 mm（奥行）×1 7		

2020	4	8 ～ 10	0 0 mm（深さ）をドラグショベルで掘削した箇所で、作業員 2 名が土止め支保工の腹起し部材を取り付ける作業をしていたところ、背後の地山が 5 0 0 mm（幅）× 4 0 0 0 mm（奥行）× 1 7 0 0 mm（深さ）に亘って崩壊し、1 名が崩壊した土砂と腹起し部材との間に挟まれて死亡した。	30110	10～ 29
2020	3	10 ～ 12	道路改良工事において、矢板を打ち込んでいたが石にあたったため、矢板の打ち込みができなくなり、石を確認するために矢板周辺の土砂をドラグ・ショベルで約 3 m 掘削し、現場監督が写真撮影をするため掘削した穴に入ったところ周辺の土砂が崩れ落ち、生き埋めになり死亡したもの。	30106	1～9
2020	3	10 ～ 12	ケーブルクレーン用バックステアアンカー支圧版設置部の掘削が完了し、掘削後の斜面にこぼれた土砂の清掃作業をコンプレッサーに接続されたエアホースで行っていたところ、被災者が作業を行っていた箇所上方の岩盤が長さ 4. 5 m、幅 3. 5 m にわたり崩落し、当該岩盤の上部にあった岩石（約 1 m×1 m、厚さ約 6 0 c m）の下敷きとなったもの。	30104	1～9
2020	2	14 ～ 16	被災者は、幅 1. 1 m、深さ 3. 5 m に掘削した掘削床で下水道管の埋設作業を行っていたところ、掘削面が崩壊し、崩れた土砂に埋もれ死亡したもの。	30110	1～9
2020	1	8 ～ 10	住宅造成工事現場において、被災者は地山を掘削した後の法面（高さ約 5 m）の下で、当該法面の手前に擁壁を設置するためにブロックを積み上げる作業をしていたところ、法面が崩壊し、被災者が土砂に埋まり死亡したもの。	30109	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html